

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報

31

平成27(2015)年度事業報告

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター

平成 29(2017)年3月

序

鹿児島大学キャンパス（鹿大構内遺跡・脇田亀ヶ原遺跡・唐湊遺跡）には、後期旧石器時代から近代までの、貴重な遺跡が包蔵されていることが、鹿児島大学埋蔵文化財調査センターの発掘調査によって明らかにされています。その成果は、これまでに『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』Vol.1～26、『鹿児島大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書』第1～7集、平成24年にセンターに改称されてからは、『鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報』Vol.27～30、『鹿児島大学埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書』第8～12集として、逐次報告されてきました。

今年度は、事業報告書として『鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報』Vol.31を刊行することになりました。当センターが実施した鹿大構内遺跡（郡元団地）や脇田亀ヶ原遺跡（桜ヶ丘団地）の試掘調査、立会調査、その他の事業などについて記しています。

現在もキャンパス内では、多くの施設整備事業が進められており、それに先立って必要な埋蔵文化財調査が行われています。文化財保護法を遵守しながら、学内施設整備が適切に進むよう、埋蔵文化財調査センターでは努力していく所存です。今後ともセンターの活動に際し、学内外の皆さまのご理解、ご支援をお願い申し上げます。

平成29年3月

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター長
鹿児島大学埋蔵文化財調査委員長

中村 直子

例言

1. 本報告は、鹿児島大学埋蔵文化財調査センターが平成 27(2015)年度に行なった事業の年次報告である。したがって、内容についての施設名称や職制などは当時のものである。また、付編として、平成 19 (2007) 年度に発掘調査を実施した、2007-2 共通教育棟 2 号館改修工事に伴う発掘調査における脊椎動物遺体分析（早稲田大学・樋泉岳二氏）および植物遺体分析（岡崎市教育委員会・前川祐子氏）の玉稿を賜った。
2. 本書に掲載している試掘調査および立会調査は、鹿児島県教育委員会、鹿児島市教育委員会が実施し、鹿児島大学埋蔵文化財調査センターがこれを補助した。
3. 試掘調査のデータ収集・記録は、中村直子、新里貴之による。立会調査は寒川朋枝による。
4. 本書の作成にあたっては、埋蔵文化財調査センターが行なった。担当者は以下のとおりである。

製図・作表・執筆（新里） 付編 1（中村）
編集（新里・中村・寒川）

5. 遺物の保管は、埋蔵文化財調査センターの管理のもと、各学部、部局が収蔵している（平成 16 [2004] 年施設マネージメント委員会による）。また、図面・写真・デジタルデータなどの資料は、埋蔵文化財調査センターにおいて保管・管理されている。

凡例

- 1 昭和 60（1985）年 6 月 1 日の埋蔵文化財調査室（当時）設置を機として、鹿児島大学キャンパス内におけるこれからの埋蔵文化財調査室に便であるように、鹿児島大学キャンパス内座標を鹿児島大学構内遺跡（郡元団地）と脇田亀ヶ原遺跡（桜ヶ丘団地：旧宇宿団地）とに設定した。その設定については以下のとおりである。なお、唐湊学生寮は、平成 27（2015）年 8 月 11 日、埋蔵文化財包蔵地「唐湊遺跡」として、決定した（「鹿教文第 417 号」）。キャンパス内座標は設置していない。
 - （1）郡元団地では、国土座標第 2 座標系（ $X=-158,200$ ， $Y=-42,400$ ）を基点として、一辺 50m の方形地区割りを行なった（Fig.2 参照）。
 - （2）桜ヶ丘団地では、国土座標第 2 座標系（ $X=-161,600$ ， $Y=-44,400$ ）を基点として、一辺 50m の方形地区割りを行なった（Fig.3 参照）。
- 2 本年報におけるレベル高は、すべて海拔を表し、方位は真北方向を示す。
- 3 土層・遺物の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用した。この色調に当てはまらないものについては「～に類似」、あるいは一般的な色調で表記した。
- 4 図・写真・表は、通し番号を付す。付編についてはそれぞれが独立しているため、それぞれ番号が付されている。

鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会規則

規則第 32 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、鹿児島大学埋蔵文化財調査センター規則(平成 16 年規則第 103 号)第 8 条の規定に基づき、鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会(以下「委員会」という。)に関し、必要な事項を定める。

(組織)

第 2 条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1) 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター長(以下「センター長」という。)

(2) 各学部、大学院理工学研究科及び大学院医歯学総合研究科の教授、准教授又は講師のうちから選出された者各 1 名

2 前項第 2 号の委員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第 3 条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。

(1) 調査実施計画に関すること。

(2) 埋蔵文化財調査センターの予算に関すること。

(3) その他埋蔵文化財の業務に関すること。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、第 2 条第 1 項第 1 号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第 5 条 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第 6 条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(事務)

第 7 条 委員会に関する事務は、施設部企画課において処理する。

(雑則)

第 8 条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

2 この規則の施行前に委員となった助教授は、その任期の満了の日まで引き続き委員とする。

附 則

この規則は、平成 19 年 11 月 28 日から施行し、平成 19 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規則は、平成 20 年 1 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター規則

規則第 103 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、鹿児島大学学則(平成 16 年規則第 86 号)第 7 条第 2 項の規定に基づき、鹿児島大学埋蔵文化財調査センター(以下「センター」という。)に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 センターは、鹿児島大学(以下「本学」という。)の埋蔵文化財の調査に関する業務を行い、本学内に存在する埋蔵文化財の保護対策を講ずることを目的とする。

(業務)

第 3 条 センターは、次の業務を行う。

- (1) 調査実施計画の立案
- (2) 発掘調査、分布調査及び確認調査
- (3) 調査報告書の作成
- (4) その他必要な事項

(職員)

第 4 条 センターに、次の職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 主任
- (3) その他必要な職員

(センター長)

第 5 条 センター長は、本学の考古学に関連する教員のうちから国立大学法人鹿児島大学学内共同教育研究施設等人事委員会(以下「委員会」という。)の意見を参考にして、学長が選考する。

- 2 センター長は、センターの業務を掌理する。
- 3 センター長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。
- 4 センター長に欠員を生じた場合の補欠のセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(主任等)

第 6 条 主任は、センターの職員の中から、特に埋蔵文化財に関する専門知識を有する者を委員会が推薦し、学長が選考する。

- 2 主任は、センター長の命を受けてセンターの業務を処理する。
- 3 職員は、センターの業務に従事する。

(事務)

第 7 条 センターに関する事務は、施設部企画課において処理する。

(雑則)

第 8 条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規則の施行後、最初の室長は学長が指名した者をこの規則により選考したものとみなす。

附 則

この規則は、平成 22 年 1 月 29 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会（平成 27 年 4 月 1 日現在）

委員長 中村直子（埋蔵文化財調査センター長）

委員 渡辺芳郎（法文学部）

黒光貴峰（教育学部）

近藤正男（理工学研究科・理学系）

平田好洋（理工学研究科・工学系）

田松裕一（医歯学総合研究科）

福留清博（医学部）

嶺崎良人（歯学部）

白樂善則（工学部）

花城 勲（農学部）

松元光春（共同獣医学部）

鳥居享司（水産学部）

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター（平成 27 年 4 月 1 日現在）

センター長 教授 中村直子

助教 新里貴之

特任助教 寒川朋枝

技術補佐員 東 友子

濱田綾子

篠原美智子

I 平成27(2015)年度の事業概要

平成27(2015)年度は、発掘調査はなく、試掘調査2件、立会調査13件を実施した。遺物整理作業は3件、印刷物として発掘調査報告書第12集、年報30の2冊を刊行、遺物保管作業2件を実施した。その他の事業としては、公開講座1件、公開講演会1件、資料貸出4件、実習受入を1件実施した(Tab.1)。

以下、II～VIIにその詳細を記す。

Tab.1 平成27(2015)年度事業一覧

事業	コード名	調査区	地区	工事名称	担当者		期間
					県・市教委	調査室	
試掘	2015-1	郡元	B-7	小動物臨床獣医研修センター建設工事	中村	中村	2015年6月15日
	2015-2	桜ヶ丘	L-6	附属病院歯科診療棟・病棟第一種感染症病室改修その他工事	森	新里	2015年9月3日
事業	コード名	調査区	地区	工事名称	担当者		期間
					市教委	調査室	
立会	2014-B	郡元	O・P-4・6・7	教育学部学習プラザ新営その他機械設備工事における土木工事	井口	寒川	2015年4月3日、5月11日
	2015-A	郡元	P-7	教育学部学習プラザ新営その他工事	長野	寒川	2015年6月3日
	2015-B	郡元	C-3～5	実習棟(産業動物飼育施設)新営機械設備工事	井口	寒川	2015年6月15・22日
	2015-C	郡元	B・C-3・4	実習棟(産業動物飼育施設)新営その他工事	井口	寒川	2015年7月22日
	2015-D	郡元	E-10	農学部附属農場イナバレージ設置工事	井口	寒川	2016年1月18日
	2015-E	郡元	O-5	第一講義棟便所改修機械設備その他工事	真鍋	寒川	2015年11月20日
	2015-F	桜ヶ丘	J-5・6	福利厚生施設改修その他工事	長野	寒川	2015年11月25日
	2015-G	桜ヶ丘	J-6	福利厚生施設改修電気設備工事	長野	寒川	2015年11月25日
	2015-H	郡元	H・I-10・11	建築学科棟2号館改修機械・電気設備工事(慎重工事)	吉留	寒川	2016年2月2・26日
	2015-J	桜ヶ丘	H-6	医歯学総合研究棟3改修電気設備工事	吉留	寒川	2016年2月10日
	2015-K	郡元	I・J-11・13	西門他外灯設備工事	井口	寒川	2016年2月15日
	2015-L	桜ヶ丘	J-8・10	郡元他情報工学科棟便所改修等機械設備その他工事(慎重工事)		寒川	2016年1月27日
	2015-M	桜ヶ丘	K-10	サークル棟周辺外灯設備工事	吉留	寒川	2016年3月4日
事業	コード名	内容		担当者	期間		
整理作業	1976-1	郡元	土器・石器・陶磁器分類	理学部2号館増築予定地(釘田第8地点)発掘調査	寒川・新里・篠原・濱田・東	2015年4～5月、2016年1～3月	
	1976-1	郡元	トレース	理学部2号館増築予定地(釘田第8地点)発掘調査	篠原・東・濱田	2015年6～12月	
	2014-A～N	郡元・桜ヶ丘		2014年度立会調査	寒川	2015年4～12月、2016年1月～3月	
事業	内容			担当者	発行		
刊行物	報告書			鹿児島大学埋蔵文化財調査報告書 第12集	新里	2016年3月	
	年報			鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 30	寒川	2016年3月	
事業	内容			担当者	期間		
遺物保管	遺物収蔵状況確認			15か所	中村・寒川・新里・篠原・東・濱田	2015年6月	
	収蔵場所移動			仮設プレハブ稲森アカデミー3F	中村・寒川・新里・篠原・東・濱田	2016年3月29日	
事業	内容			担当者	講演者	期間	
その他	公開講座・ワークショップ 『人骨の考古学』			「古人骨から分かること:南九州・南西諸島の事例から」 「昔の人の食を考える:歯石残存デンプン粒分析を中心に」	寒川	竹中正巳 下野真理子	2015年7月26日
	公開講演会 『奄美考古学研究の課題』			協力:奄美考古学会	新里	甲元真之	2016年2月6日
	遺物貸出			鹿大総合研究博物館15回特別展示「成川式土器ってなんだ?」遺物貸出	中村	(原稿執筆:中村・寒川・新里)	2015年9月30日～10月27日
	遺物貸出			鹿児島大学法文学部「大学生による小学校出前授業」のため鹿大構内遺跡遺物貸出	中村		2016年1月26～28日
	資料貸出			上野原縄文の森第42回企画展「蘇るSHOKU I 『食』から見える古の生活」写真提供	中村		2015年4月17日～7月5日
	写真提供			国際文化財株式会社HP掲載写真提供	中村		2015年7月21日
	写真提供			鹿児島市教育委員会市政出前トーク「遺跡から学ぶ鹿児島の歴史」発表資料のため写真提供	寒川		2016年1月13日
実習受入	法文学部博物館実習生受け入れ・指導			中村		2015年6月6日	



Fig.1 鹿児島大学構内遺跡(郡元団地)・脇田亀ヶ原遺跡(桜ヶ丘団地)・唐湊遺跡(唐湊学生寮)
国土地理院鹿児島南部 1 : 25000 (平成 16 年発行を改編)

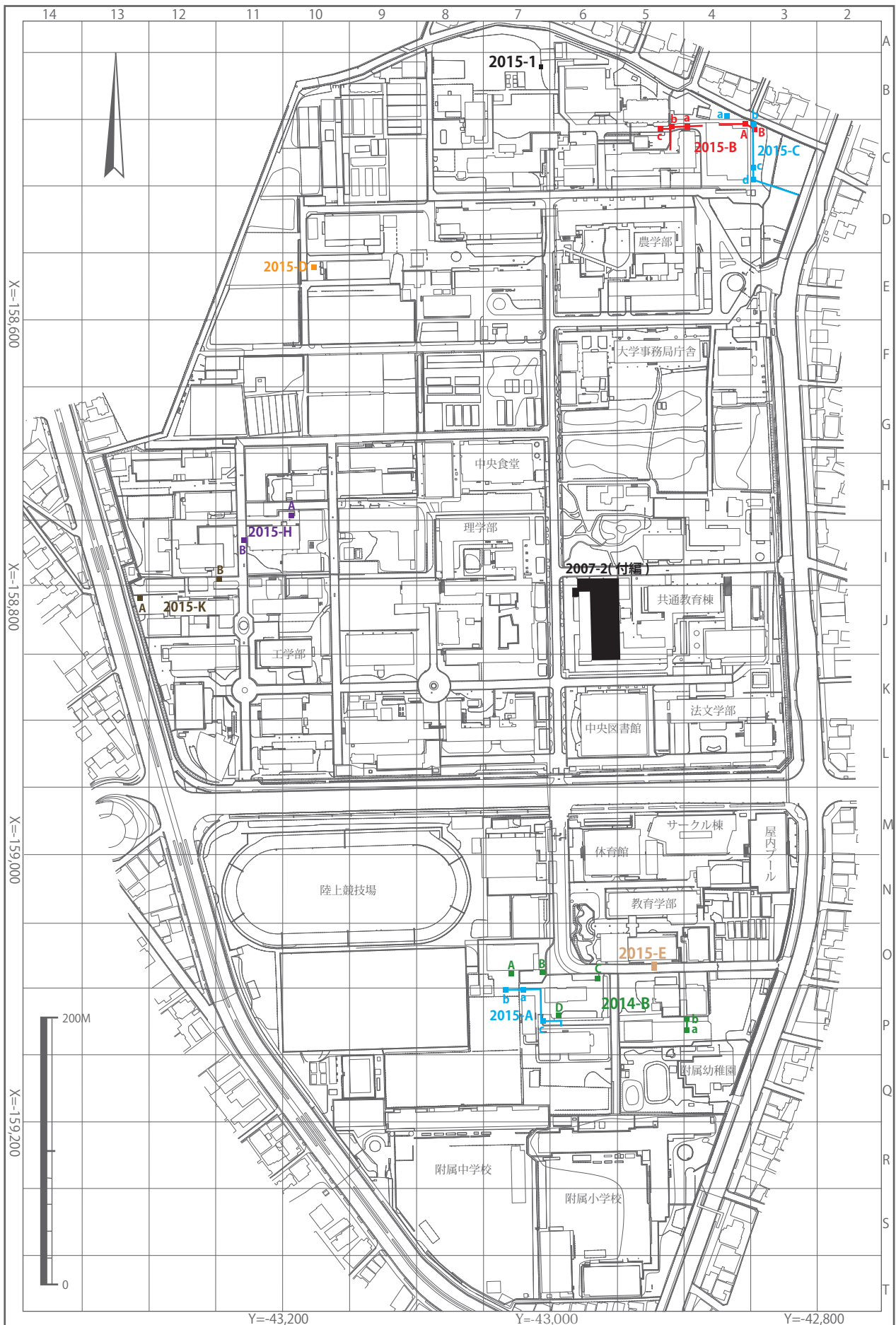


Fig.2 鹿児島大学構内遺跡郡元団地 (1/4000)

I 平成 27(2015) 年度の事業概要



Fig.3 脇田亀ヶ原遺跡桜ヶ丘団地 (1/4000)

II 試掘調査

ここでは、平成 27（2015）年度に行なわれた試掘調査の報告を行なう。

2015-1 郡元団地 B-7 区小動物臨床獣医研修センター建設工事に伴う試掘調査

1 調査の経緯

鹿児島大学では、農学部実習地に校舎建設を予定している（Fig.2・4）。建設予定地周辺では埋蔵文化財の調査実績がほとんどなく、建設工事に際し、埋蔵文化財の有無や層の状況を確認する必要が生じた。鹿児島市教育委員会との協議の結果、平成 27 年 6 月 15 日に鹿児島市教育委員会が主体者となった試掘調査を実施することとなった。

2 調査体制

所在地：鹿児島市郡元 1-21-24

調査起因：小動物臨床獣医研修センター建設工事

調査主体者：鹿児島市教育委員会文化課

調査担当者：鹿児島市教育委員会文化課 井口俊二

調査補助者：鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 中村直子

試掘期間：平成 27（2015）年 6 月 15 日

調査面積：10m²

遺跡の現状：農学部実習地

3 調査経過

試掘調査区は、鹿児島大学郡元団地の北端にあたる、鹿児島大学農学部実習地内に設置された。南北約 5 m、東西 2 m のトレンチを、地表下 3.3m まで重機にて掘削した（PL.1・2）。土層や遺物出土状況を確認しながら掘り下げを行ったが、近代以降の瓦類以外は、遺物の出土はなかった。以下は無遺物層であろうと考えられるシルト層まで確認したレベルで掘削を終了し、西壁を精査して土層確認を行った。壁面等の写真撮影後、埋め戻して調査を終了した。

4 層序

掘削中、地表下約 1.3m のレベルで瓦やレンガ、凝灰岩製ブロック、木片などが含まれる土坑にあたったが、高等農林学校か新制大学初期の時期のものであろうと考えられる。それより上位の層は客土であった。客土以下は、シルトを基調とし、筋状の鉄分やマンガンを含む層が水平堆積している（Fig.5, PL.3）。平成 26（2014）年度に発掘調査を実施した保健管理センター北側地点で検出された近世水田遺構の層と類似するため、水田層であると推定される。一部、6a 層や 8 層は土層が攪拌されていた。

10～14 層は、粗砂・黄白色シルト・黒色シルト・細砂と均質な土質の層が水平に堆積しており、人為的な攪拌は認められなかった。粗砂層は、河川の氾濫による堆積であると考えられる。農学部周辺でのこれらに類似する層位は、過去の調査でも確認されているが、弥生時代初頭以前の時期に相当すると考えられる。

5 まとめ

試掘調査では、近世以前の遺物の出土はなかった。ただし、周辺で検出された近世の水田層と類似する土層が確認され、近世の耕作地であったと考えられる。中世以前のものと確定できる土層はなかったが、調査区底面近くのシルト層や粗砂は先史時代の層である可能性が高い。しかし、遺物の出土や土層の人的な攪拌などは確認できなかった。

II 試掘調査

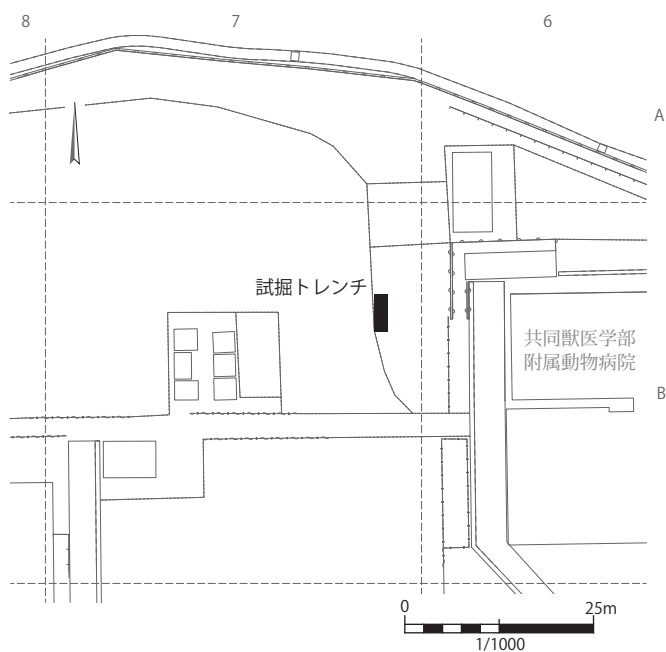


Fig.4 2015-1 試掘位置

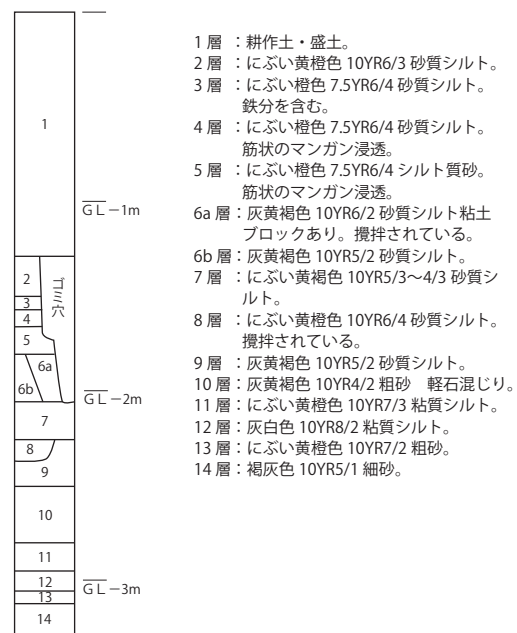


Fig.5 2015-1 試掘トレンチ柱状図



PL.1 2015-1 試掘位置 (北より)



PL.2 2015-1 西壁土層



PL.3 2015-1 土層

2015-2 桜ヶ丘団地 L-6 区附属病院歯科診療棟・病棟第一種感染症病室改修その他工事に伴う試掘調査

1 調査の経緯

鹿児島県の実請を受け、鹿児島大学では平成 27（2015）年度内に、危険性の極めて高い一種感染症患者受入のための指定医療機関として、関連施設整備（空調・排水処理設備・病室など）を鹿児島大学桜ヶ丘団地内で実施することとなった（Fig.3・6）。桜ヶ丘団地範囲は脇田亀ヶ原遺跡となっており、施設予定地はこれまで土層データが得られていない場所であったため、埋蔵文化財の有無や層の状況を確認する必要が生じた。鹿児島県教育委員会との協議の結果、鹿児島県教育委員会が試掘を担当し、鹿児島大学埋蔵文化財調査センターがこれを支援することとなった。

2 調査体制

所在地：鹿児島市桜ヶ丘 8-35-1

調査 起因：2011-4 学習交流プラザ建設に伴う試掘調査

調査主体者：鹿児島県教育委員会

調査担当者：鹿児島県教育委員会 森幸一郎

調査補助者：鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 新里貴之

試掘 期間 平成 27（2015）年 9 月 3 日

調査 面積 約 1.5㎡

遺跡の現状 駐車場

3 調査経過

試掘予定地は駐車場であり、マンホールや配管後のアスファルトの再舗装が多く、その下に配管が埋設されている可能性が高かったため、施設建設予定地 10 × 3.5m 範囲のうち、配管のないと思われる北端の 1.5 × 1m 範囲とした（PL.4）。舗装部分をカッティングし、重機で表土を掘削したが（PL.5）、表土下位は無遺物層である入戸火砕流堆積物（シラス）であった。3層で確認されたオレンジ色のパミスを含むシラスは、通常、桜ヶ丘団地内で最深部の遺物包含層であるチョコ層から 70cm 下位で検出されるものである（Fig.7, PL.6・7）。そのため、135m 深度で掘削を止め、記録をとって埋め戻し、現状に復して調査を終了した。

4 層序

1層は舗装アスファルト、バラスを含む攪乱層である。2～4層は約 29000 年前に堆積した始良カルデラ起源の入戸火砕流堆積物（AT）であり、脇田亀ヶ原台地を形成する基盤層で、無遺物層である。そのなかの 3層のオレンジ色のパミスは、桜島起源の P17（約 24000 年前）ではないかとされている。後期旧石器時代～縄文時代草創期の遺物包含層であるいわゆるチョコ層は、削平されて失われていると判断される。

5 まとめ

試掘箇所は、上部が削平されたシラスであったため、周辺は旧地形としては高かった箇所を、削平して整地している可能性が考えられ、包蔵地点としては希薄な箇所であることが確認された。しかしながら、その北側に約 100m ほど離れたグラウンド部には良好に縄文時代の遺物包含層が残存している箇所があり、今回の試掘地点と北側グラウンドとの区間については、工事に際して今後も慎重な対応が必要である。

II 試掘調査

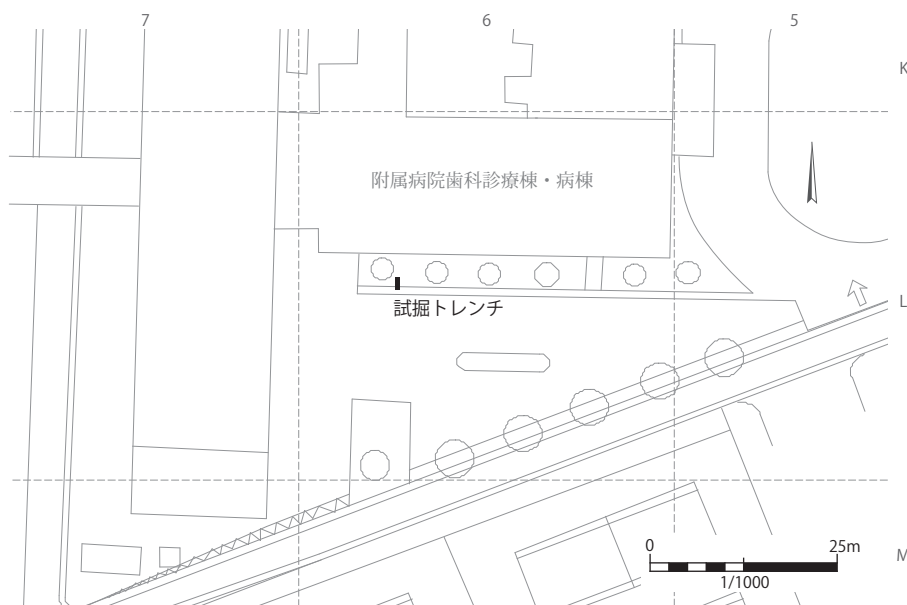
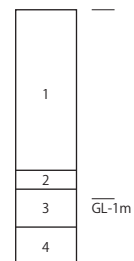


Fig.6 2015-2 試掘位置



- 1層：アスファルト・バラス・攪乱。
- 2層：入戸火碎流堆積物。にぶい黄橙色 10YR6/3 シルト。しまり良い。
- 3層：入戸火碎流堆積物。にぶい黄橙色 10YR6/3 シルトベースに、黄橙色 10YR8/6 パミス混じり。しまり良い。
- 4層：入戸火碎流堆積物。にぶい黄橙色 10YR6/3 シルト。しまり良い。

Fig.7 2015-2 試掘柱状図



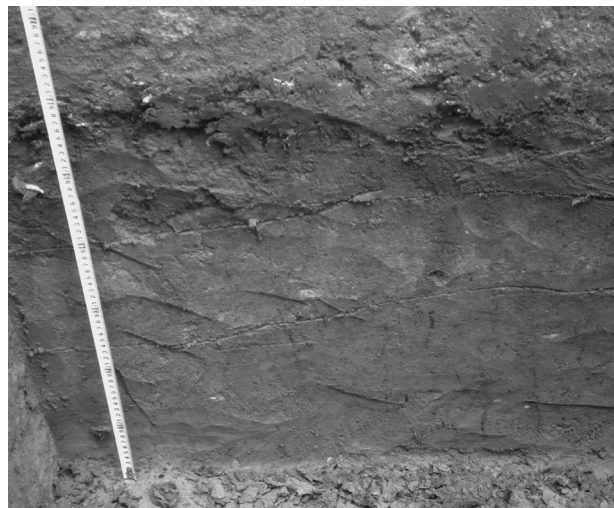
PL.4 2015-2 試掘位置 (南より)



PL.5 2015-2 試掘位置 (北より)



PL.6 2015-2 南壁土層



PL.7 2015-2 土層

Ⅲ 立会調査

平成 23 (2011) 年度は、郡元団地内で 8 件、桜ヶ丘団地内で 5 件、計 13 件の立会調査を実施した。以下にその概要を記す。なお、一部の慎重工事も立会を実施している。

2014-B 教育学部学習プラザ新営その他機械設備工事における土木工事 (Fig.2・8, PL.8～11)

調査地点 郡元団地 O・P-4・6・7 区

調査期間 2015 年 4 月 3 日, 5 月 11 日

調査担当 鹿児島市教育委員会 井口俊二

埋蔵文化財調査センター 寒川朋枝

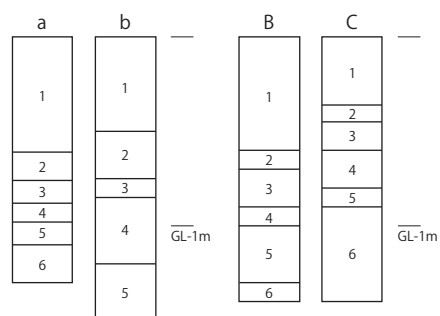
平成 26 (2014) 年度内で施工できなかった工事が、本年度まで持ち送られた。教育学部教育実践センター南側の古い外灯を撤去、新しい外灯に取り替える工事において、130～150cm 深度で掘削した (a・b 地点)。比較的良好に包含層が座員損していたが、遺物は b 地点 4 層において三角突帯を有する土器小片が 1 点得られたのみであった。また、学習プラザ周辺において、電気配線工事のための掘削が行われた (A～D 地点)。A 地点は地表下 140cm 深度まで攪乱されており、D 地点は地表化 120cm まで攪乱されていた。B・C 地点はともに地表化 140cm 深度まで掘削したが、ともに 6 層の基盤層まで確認できた。弥生時代～古代にいたる黒色土層も確認できたが、遺物は得られていない。基盤層の高さからは、東側 C 地点が旧地形として高く、西側 B 地点は低いと判断された。



PL.8 2014-B a 地点



PL.9 2014-B b 地点



- a
- 1 攪乱。
 - 2 褐灰色 10YR5/1 シルト。パミスが極少量混じる。
 - 3 灰黄褐色 10YR5/2 シルト。鉄分少量混じる。細砂を含む。
 - 4 黄褐色 10YR5/6 シルト。鉄分多い。細砂を含む。
 - 5 褐色 7.5YR4/4 シルト。パミス少量含む。細砂少量含む。
 - 6 暗褐色 7.5YR3/4 シルト。パミス混じり。細砂少量含む。
- b
- 1 攪乱。
 - 2 暗褐色 7.5YR3/3 シルト。細砂含む。
 - 3 黄褐色 10YR5/8 シルト。パミス混じり。鉄分多い。
 - 4 暗褐色 7.5YR3/3 シルト。細砂少量含む。鉄分を含む。
 - 5 黒褐色 10YR3/2 シルト。やや粘性あり。
- B
- 1 攪乱。
 - 2 黄橙色 10YR7/8 シルトと灰白色 10YR7/1 シルト。パミス混じり。細砂・鉄分を含む。
 - 3 灰白色 10YR7/1 シルト。パミス混じり。細砂・鉄分を含む。
 - 4 黒褐色 10YR3/2 シルト。パミス混じり。細砂を含む。
 - 5 黒色 10YR2/1 シルト。
 - 6 褐灰色 10YR5/1 シルト。黄・白色パミス混じり。細砂を含む。
- C
- 1 攪乱。
 - 2 黄橙色 10YR7/8 シルトと灰白色 10YR7/1 シルト。細砂を含む。
 - 3 黒色 10YR2/1 シルト。
 - 4 黒色 10YR2/1 シルトと灰黄褐色 10YR4/2 シルト混じり。パミス少量混じり。
 - 5 黄橙色 10YR8/8 粗砂。

Fig.8 2014-B 柱状図



PL.10 2014-B B 地点



PL.11 2014-B C 地点

2015-A 教育学部学習プラザ新営その他工事 (Fig.2)

調査地点 郡元団地 P-7 区

調査期間 2015 年 6 月 3 日

調査担当 鹿児島市教育委員会 長野陽介

埋蔵文化財調査センター 寒川朋枝

学習プラザ外構工事に伴う井水揚水送水管敷設のため、郡元南食堂（エデュカ）と学習プラザ間の掘削を実施した（a～c 地点）。地表下 80～100cm 深度である。各箇所ともに攪乱されていた。a 地点攪乱層より無文土器小片が 1 点得られた。

2015-B 実習棟（産業動物飼育施設）新営機械設備工事 (Fig.2・9, PL.12・13)

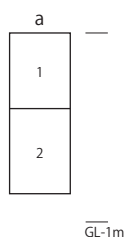
調査地点 郡元団地 C-3～5 区

調査期間 2015 年 6 月 15・22 日

調査担当 鹿児島市教育委員会 井口俊二

埋蔵文化財調査センター 寒川朋枝

産業動物飼育施設北側において、外構工事として井水・市水配管工事が行われた。掘削深度は地表下 70～85cm である（a～c 地点、A・B 地点）。a 地点において 40cm 深度以下に河川砂層が確認された。攪乱層より薩摩磁器皿の見込み部分が 1 点出土している（鹿児島大学法文学部渡辺芳郎教授のご教示による）。b・c、A・B 地点は攪乱されていた。



1 層：攪乱。
2 層：白灰色細砂。
河川堆積物。

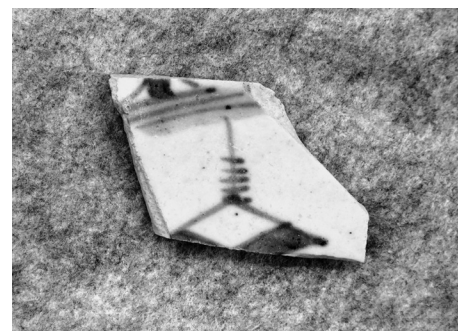


Fig.9 2015-B 柱状図

PL.12 2015-B a 地点土層

PL.13 2015-B a 地点遺物

2015-C 実習棟（産業動物飼育施設）新営その他工事 (Fig.2・10, PL.14)

調査地点 郡元団地 B・C-3・4 区

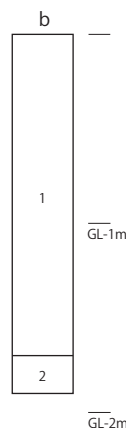
調査期間 2015 年 7 月 22 日

調査担当 鹿児島市教育委員会 井口俊二

埋蔵文化財調査センター 寒川朋枝

産業動物飼育施設北側・東側において、外構工事として排水配管工事が行われた。掘削深度は地表下 70～150cm である（a～d 地点）。a・c・d 地点は攪乱されており、b 地点のみ 190cm 深度で水田層らしきシルト層が確認された。

遺物は得られていない。



1 層：攪乱。
2 層：黄白色粘質シルト。



Fig.10 2015-C 柱状図

PL.14 2015-C 土層

2015-D 農学部附属農場イナバガレージ設置工事 (Fig.2)

調査地点 郡元団地 E-10 区
 調査期間 2016年1月18日
 調査担当 鹿児島市教育委員会 井口俊二
 埋蔵文化財調査センター 寒川朋枝

附属農場敷地内の研究実習棟西側において、プレハブ設置工事が予定された。工事予定地北東隅を地表下50cmで掘削したところ、攪乱層であった。遺物も得られていない。

2015-E 第一講義棟便所改修機械設備その他工事 (Fig.2・11, PL.15・16)

調査地点 郡元団地 O-5 区
 調査期間 2015年11月20日
 調査担当 鹿児島市教育委員会 真鍋雄一郎
 埋蔵文化財調査センター 寒川朋枝

教育学部第一講義棟の便所改修工事のための掘削工事を実施した。地表下150cm深度まで掘削した。包含層は良好に残存しており、古代～中近世土層(2層)、弥生時代～古代の土層(3・4層)が確認された。西壁には、3層上面に河川氾濫と考えられる細砂層が確認されている。遺物はほとんどなく、3層上面において無文土器小片が1点得られたのみであった。

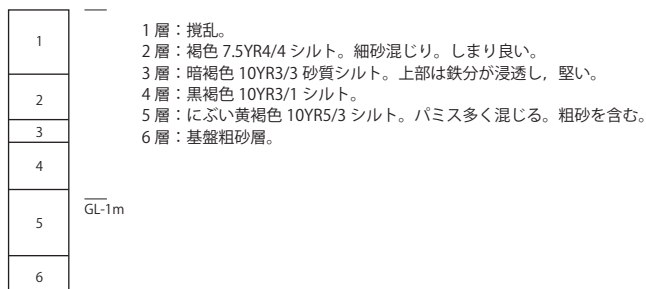


Fig.11 2015-D 柱状図

PL.15 2015-E 土層 (東)

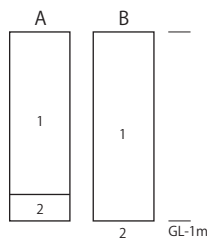
PL.16 2015-E 土層 (西)

2015-F 福利厚生施設改修その他工事 (Fig.3・12, PL.17)

調査地点 桜ヶ丘団地 J-5・6 区
 調査期間 2015年11月25日
 調査担当 鹿児島市教育委員会 長野陽介
 埋蔵文化財調査センター 寒川朋枝

桜ヶ丘団地福利厚生施設整備において、3箇所が掘削された(A～C地点)。A地点では地表下約90cmより、B地点では地表下100cm以下より約12800年前に降下した桜島起源のサツマ火山灰(P14)が確認された(無遺物層)。C地点は110cmまで攪乱されていた。

遺物は確認されていない。



A・B
 1層：攪乱。
 2層：サツマ火山灰。



Fig.12 2015-F 柱状図

PL.17 2015-F 土層

2015-G 福利厚生施設改修電気設備工事 (Fig.3・13, PL.18・19)

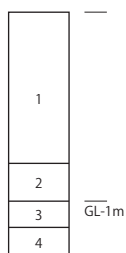
調査地点 桜ヶ丘団地 J-6 区

調査期間 2015 年 11 月 25 日

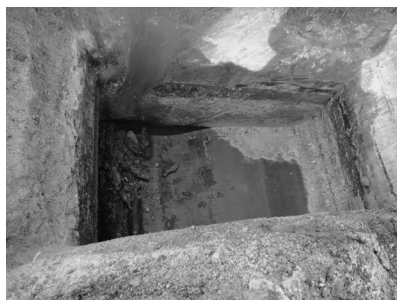
調査担当 鹿児島市教育委員会 長野陽介

埋蔵文化財調査センター 寒川朋枝

桜ヶ丘福利厚生施設整備に関連して、電気配管箇所を掘削した。地表下 50cm でサツマ火山灰が確認され、その下部の後期旧石器時代～縄文時代草創期のチョコ層が確認された。遺物は確認されていない。



- 1 層：攪乱。
- 2 層：黄色 2.5YR7/8 パミス。
サツマ火山灰。
- 3 層：黒色 10YR2/1 粘質シルト。
チョコ層。
- 4 層：褐色 10YR4/4 粘質シルト。
チョコ層。



PL.18 2015-G 土層 1



PL.19 2015-G 土層 2

Fig.13 2015-G 柱状図

2015-H 建築学科棟 2 号館改修機械・電気設備工事 (慎重工事) (Fig.2)

調査地点 郡元団地 H・I-10・11 区

調査期間 2016 年 2 月 2・26 日

調査担当 鹿児島市教育委員会 吉留正樹

埋蔵文化財調査センター 寒川朋枝

建築学科 2 号館改修工事に伴い、外灯設置工事が実施された。穴掘建柱車による掘削であったため、慎重工事であったが、遺物が比較的に出土する地点であるため、簡易の立会を実施した。A 地点では地表下 70cm で一度ドリルを抜いて土層を確認したところ、水田層らしき灰色シルトと古代～中世層と思われる命黄褐色土層が確認された。その後、地表下 1.4m まで掘削したところ、黄白色の河川堆積物らしき細粗砂が検出されている。B 地点では地表下 1.5m まで攪乱されていた。遺物は得られていない。

2015-J 医歯学総合研究棟 3 改修電気設備工事 (Fig.3・14, PL.20)

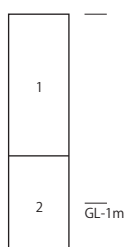
調査地点 桜ヶ丘団地 H-6 区

調査期間 2016 年 2 月 10 日

調査担当 鹿児島市教育委員会 吉留正樹

埋蔵文化財調査センター 寒川朋枝

桜ヶ丘医歯学総合研究棟南側において外灯設置箇所を掘削した。地表下 125cm まで掘削し、地表下 75cm 以下から、いわゆるシラスと呼ばれる入戸火砕流堆積物 (基盤層) が確認され、包含層は削平されていた。遺物も得られていない。



- 1 層：攪乱。
- 2 層：明黄褐色 10YR6/8 シルト。橙色パミス混じり。入戸火砕流堆積物。



PL.20 2015-J 土層

Fig.14 2015-J 柱状図

2015-K 西門他外灯設備工事 (Fig.2・15, PL.21・22)

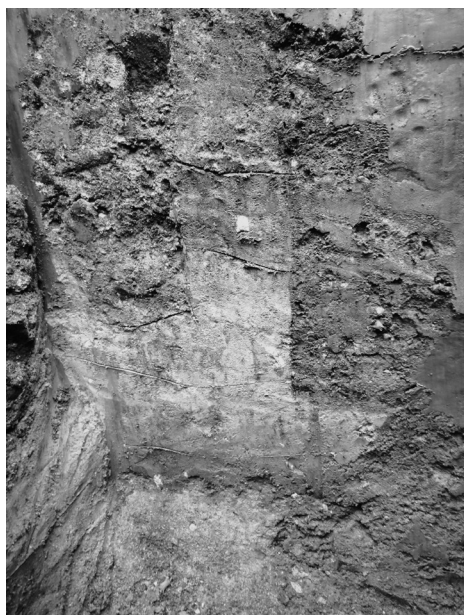
調査地点 郡元団地 I・J-11・13 区

調査期間 2016年2月15日

調査担当 鹿児島市教育委員会 井口俊二

埋蔵文化財調査センター 寒川朋枝

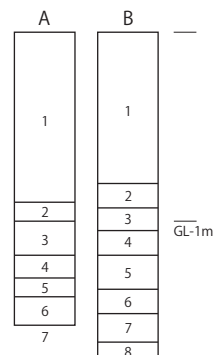
郡元団地西門付近で外灯設備工事が実施された。新設箇所 (A・B 地点) を掘削したところ、良好に包含層が残存していた。A 地点は地表下 1550cm, B 地点は地表下 174cm まで掘削した。遺物は出土せず、時期については不明であった。



PL.21 2015-K A 地点土層



PL.22 2015-K B 地点土層



- A
- 1層：攪乱。
 - 2層：灰白色 10YR7/1 細砂質シルト。鉄分浸透。
 - 3層：褐灰色 10YR6/1 粘質シルト。鉄分浸透。
 - 4層：灰白色 10YR7/1 細砂質シルト。
 - 5層：灰白色 10YR7/1 粘質シルト。
 - 6層：褐灰色 10YR6/1 粘質シルト。
 - 7層：灰白色 10YR7/1 粗砂。
- B
- 1層：レンガ・攪乱。
 - 2層：にぶい黄橙色 10YR7/2 シルト。
 - 3層：灰黄褐色 10YR6/2 シルト。
 - 4層：灰白色 10YR7/1 シルト。
 - 5層：褐灰色 10YR6/1 粘質シルト。
 - 6層：黒褐色 10YR3/1 粘質シルト。
 - 7層：黒色 10YR2/1 粘質シルト。
 - 8層：灰白色 10YR7/1 粗砂。

Fig.15 2015-K 柱状図

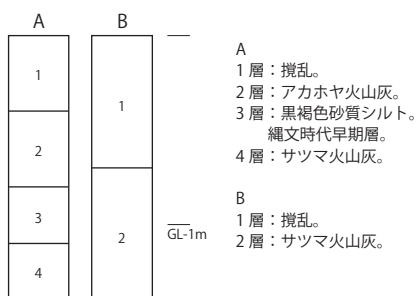
2015-L 郡元他情報工学科棟便所改修等機械設備その他工事 (慎重工事) (Fig.3・16, PL.23・24)

調査地点 桜ヶ丘団地 J-8・10 区

調査期間 2016年1月27日

調査担当 埋蔵文化財調査センター 寒川朋枝

郡元・桜ヶ丘両地域の設備工事が実施された。穴掘建柱車による地表下 140cm までの掘削であったため慎重工事であったが、桜ヶ丘でも工事地点には包含層が良好に残存している箇所であるため、センター職員のみによる簡易立会を実施した (A・B 地点)。A 地点は桜ヶ丘宿舎西側で、アカホヤ火山灰以下、良好に包含層が残存していた。B 地点は地表下 70cm ほどでサツマ火山灰が検出された。両地点ともに遺物は得られていない。



- A
- 1層：攪乱。
 - 2層：アカホヤ火山灰。
 - 3層：黒褐色砂質シルト。縄文時代早期層。
 - 4層：サツマ火山灰。
- B
- 1層：攪乱。
 - 2層：サツマ火山灰。



PL.23 2015-L A 地点



PL.24 2015-L B 地点

Fig.16 2015-L 柱状図

2015-M サークル棟周辺外灯設備工事 (Fig.3・17, PL.25・26)

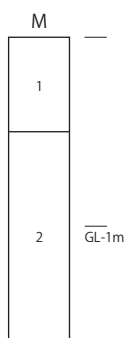
調査地点 桜ヶ丘団地 K-10 区

調査期間 2016 年 3 月 4 日

調査担当 鹿児島市教育委員会 吉留正樹

埋蔵文化財調査センター 寒川朋枝

桜ヶ丘サークル棟周辺外灯設備工事のため、弓道場北側で掘削が行われた。掘削は地表下 160cm であるが、地表下 50cm 以下でサツマ火山灰層が確認された。遺物は確認されていない。



1層：攪乱。
2層：サツマ火山灰。

Fig.17 2015-M
柱状図



PL.25 2015-M 掘削位置



PL.26 2015-M 土層

まとめ

平成 27 (2015) 年度立会調査は、鹿児島大学構内遺跡 (郡元団地) では、農学部・獣医学部敷地の産業動物飼育施設、教育学部では学習プラザの外構施設整備工事に伴う立会調査がメインとなり、これらのほか、ほぼ外灯施設整備工事がほとんどとなっている。遺物包含層は良好に残っている箇所は多いものの、小規模な掘削工事が多く、遺物はあまり得られていない。脇田亀ヶ原遺跡 (桜ヶ丘団地) においても、良好な土層の確認はできたが、遺物などは得られなかった。

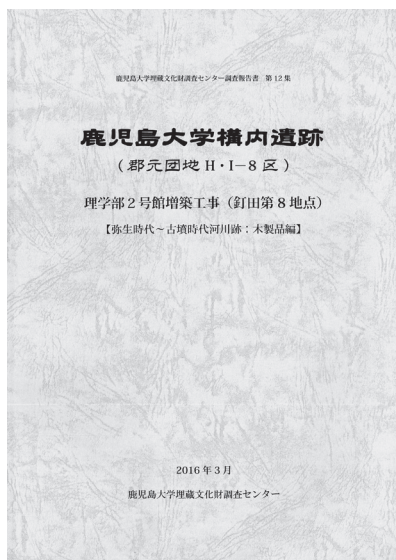
IV 整理

平成 27 (2015) 年度の報告書第 12 集の掲載予定である、76-1 郡元団地・理学部 2 号館増築工事（釘田第 8 地点）に伴う発掘調査で出土した木製遺物のトレース、そして同年刊行予定の年報 30 関連である平成 24 (2014) 年度の試掘調査データ整理を実施した。

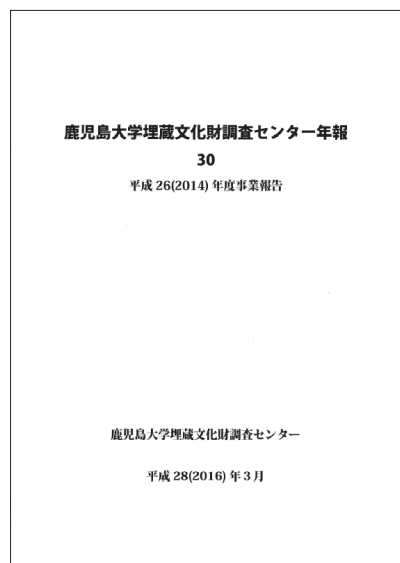
また、平成 27 年度も遺物整理作業部屋として借り受けている理工系総合研究棟 5 階の整理作業室の期限切れのため、約 800 個のコンテナ内部の土器・石器・陶磁器類を、分類しながら移動のための整理を進めた（結果的に、平成 28 年度も継続して借り受けることが可能となったため、遺物の移動はしていない）。

V 刊行

76-1 郡元団地 地理学部 2 号館増築工事（釘田第 8 地点）に伴う発掘調査で出土した弥生時代～古墳時代の木製遺物や、堆積物中の花粉分析を掲載した「鹿児島大学埋蔵文化財調査センター調査報告書第 12 集」、平成 26 年度中の発掘調査概要報告（2014-1 教育学部学習プラザ新営・2014-2 保健管理センター増築）、立会調査報告（2014-A～N）、その他の事業を掲載した「鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 30」を刊行した。



PL.27 調査報告書第 12 集



PL.28 年報 30

VI 保管

毎年実施している遺物保管作業として、平成 27 (2015) 年 6 月に遺物収蔵状況確認を 15 か所（総合研究博物館は除く）で行なった。

共通教育棟 2 号館増築工事（含・稲森アカデミー）に伴う発掘調査で出土した膨大な遺物は、調査後、仮設プレハブに保管されていたが、プレハブの老朽化とプレハブ維持費の困難さから、稲森アカデミー 3F サーバー室へ移動することとなった（PL.29・30）。移転作業は平成 28 (2016) 年 3 月 29 日に実施した。



PL.29 仮設プレハブ（移動前）



PL.30 稲森アカデミー 3F サーバー室（移動後）

VII その他の事業

1 公開講座・ワークショップ

平成 27 (2015) 年度の公開講座は、埋蔵文化財調査センターとして初めての試みである外部からの講師陣をお招きして公開講座およびワークショップを実施した。講師は鹿児島女子短期大学教授竹中正己氏、助手下野真理子氏である (PL32・33)。

7月26日、教育学部第一講義棟において『人骨の考古学』というテーマで開催した。「古人骨から分かること：南九州・南西諸島の事例から」(竹中)は、人骨から判明するヒトの形質的特徴のほか、日常的な労働、傷病、食物、遺伝的特徴など南九州～南西諸島の遺跡を例に多岐にわたった。「昔の人の食を考える：歯石残存デンプン粒分析を中心に」(下野)では、歯石や歯垢に残ったデンプン粒から、当時の植物利用の歴史を復元するという近年注目されている研究成果を講座した (PL.31)。26名の参加者があった。

講座後のワークショップでは、鹿児島女子短期大学に所蔵されている遺跡出土人骨および人骨模型を前に、参加者が集まり、講師陣の専門的な話に聞き入った (PL.34・35)。



PL.31 公開講座ポスター



PL.32 竹中正己講師



PL.33 下野真理子講師



PL.34 参加者



PL.35 人骨資料に見入る参加者

2 公開講演会

奄美考古学会の協力により、埋蔵文化財調査センターとしては初めての公開講演会を実施した。

平成28(2016)年2月6日、共通教育棟2号館を会場とし、熊本大学名誉教授甲元眞之氏を講師にお招きして(PL.37)、「奄美考古学研究の課題」と題してご講演いただいた。甲元氏は南西諸島も幅広く研究されてきたが、特に奄美諸島を中心とした研究の成果ならびに、今後の課題について集中的に講演いただいた。

長期的砂丘形成のシステムと人間の利用、中世城郭とグスクの構造的、年代的問題点、近年話題となっている喜界島城久遺跡群の建物跡を巡る広域的検討などを踏まえ、より奄美らしさが表象されている古代兼久式土器の時代から中世カムイヤキ陶器の時代における、奄美考古学界の今後の指針を提示された。70名の参加があった。

奄美諸島の古代～中世を中心とした話がメインとなっていたので、埋蔵文化財調査センターがキャンパスで発掘した古墳時代～古代の遺物も展示し、参加者は活発な意見交換を行なった(PL.39)。

3月9日には、南日本新聞紙上において、甲元氏へのインタビューを中心とした記事が掲載された(PL.40)。



PL.36 公開講演会ポスター



PL.37 甲元眞之講師



PL.38 講演会の様子



PL.39 講演関係遺物に集まる参加者

3 資料貸出

3-1 遺物貸出 (2件)

平成27(2015)年9月30日～10月27日, 鹿大総合研究博物館15回特別展示「成川式土器ってなんだ?」において, 埋蔵文化財調査センター所蔵の郡元団地内出土古墳時代遺物を貸し出した。76-1 郡元団地地理学部2号館増築工事(釘田第8地点)に伴う発掘調査出土成川式土器(未報告), 93-1 中央図書館増築地出土の成川式土器(『埋蔵文化財調査室年報19』2005年), 92-4 中央図書館増築予定地出土の鉄斧・砥石・軽石製品(『年報18』2004年), 2001-2 理学部改修地出土の青銅鈴・石鎌・ガラス玉・モモ核・ウメ核(未報告), 2007-2 共通教育棟2号館改修工事に伴う発掘調査出土の磨製石鏃・石庖丁・軽石製品・石鍬・磨石・ガラス玉・白玉・圧痕土器・動物遺体(未報告), 90-4 教育学部附属小学校プール上屋建設予定地出土の鉄製鋤先(『年報VII』1992年), 85-1 理学部3号館増築地出土石庖丁(『年報I』1986年)等である。また, 同展示に併せて製作された図録『成川式ってなんだ? 鹿大キャンパスの遺跡から出土する土器』(鹿児島大学総合研究博物館2015年)における解説に調査センタースタッフも執筆した。中村「成川式の時代」・「祭祀と成川式土器」, 寒川「鹿児島大学構内に眠る遺跡」, 新里「南西諸島の土器と成川式土器」。

平成28(2016)年1月26～28日, 鹿児島大学法文学部学生の「大学生による小学校出前授業」の一環で, 鹿大構内遺跡の土器を中心とした遺物を貸し出した。内訳は76-1 郡元団地地理学部2号館増築工事(釘田第8地点)に伴う発掘調査出土成川式土器(未報告), 97-1 郡元団地工学部校舎建設に伴う発掘調査出土の深浦式土器・春日式土器(『埋蔵文化財調査センター調査報告書第11集』2015年), 90-4 教育学部附属小学校プール上屋建設予定地出土の鉄製鋤先等である。

3-2 写真提供 (3件)

2015年4月17日～7月5日に開催された上野原縄文の森第42回企画展「蘇るSHOKU I 『食』から見える古の生活」において, 写真提供を行なった。2006-1 郡元団地農学部5号館改修工事に伴う発掘調査(『埋蔵文化財調査室調査報告書第5集』2010年)の水田遺構(鋤跡・人足跡・牛足痕), 中村による上野原縄文の森考古学講座『古墳時代の食生活:何をどのようにして食べたのか』(2015年2月7日:PPT資料)から, ウォーター・フローテーション作業, 古墳時代竪穴住居跡, 炭化米, 動物遺体, 南九州における時期別主要食用植物検出遺跡数等である。

2015年7月21日, 国際文化財株式会社のホームページ上に, 2013-1 郡元団地産業動物飼育実習棟新営工事に伴う発掘調査(未報告)の作業風景写真の提供依頼があったため, これを提供した。

2016年1月13日に実施された鹿児島市教育委員会市政出前トーク「遺跡から学ぶ鹿児島の歴史」発表資料のため, 鹿大構内遺跡の主要遺構・遺物の写真提供を行なった。提供写真は, 76-1 郡元団地地理学部2号館増築工事(釘田第8地点)(未報告), 85-1 理学部3号館増築地(『年報I』1986年), 89-3 大学院連合農学研究科校舎建設地(『年報V』1990年), 90-4 教育学部附属小学校プール上屋建設予定地(『年報VII』1992年), 92-4 中央図書館増築予定地(『年報18』2004年), 93-5 地域共同研究センター建設地(『年報12』1998年, 『年報13』1999年), 95-1 中央図書館建築:3次(『年報19』2005年), 97-1 工学部校舎建設に伴う発掘調査(『調査報告書第11集』2015年), 99-1 総合研究棟建設に伴う発掘調査(未報告), 2002-2VBL 棟建設に伴う発掘調査(未報告), 2006-2 農学部1号館改修工事に伴う発掘調査(『調査報告書第5集』2010年), 2007-2 共通教育棟2号館改修工事に伴う発掘調査(未報告), 2011-1 附属中学校グラウンド改修その他工事(『調査報告書第9集』2014年), 2012-1 大学会館他解体等工事(学生支援センター)に伴う発掘調査(未報告)等である。

4 博物館実習生受入

平成27(2015)年6月6日, 法文学部所属の博物館実習生(人文学科・経済情報学科・科目等履修生)9名を受け入れ, 土器圧痕調査およびシリコンによる圧痕レプリカ作成実験を実施した。

付編 1 鹿大構内遺跡：2007-2 郡元団地 I・J-5・6 区 (共通教育棟 2 号館) 発掘調査の概要

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター

1. はじめに

鹿児島大学埋蔵文化財調査センターでは、郡元団地 I・J-5・6 区 (共通教育棟 2 号館)¹⁾において平成 19 年度に発掘調査を実施した。発掘調査地点は、以前より古墳時代集落の中心地であると推定される場所であったが、発掘調査の結果、古墳時代後期 (6 世紀) を中心とした遺構や遺物が良好な状態で確認できた。

なかでも、検出された竪穴建物跡群のほとんどの床には炉が良好な状態で残っており、当時の食生活を知る良好な資料になると期待されたため、発掘調査では竪穴建物跡の埋土や床面、炉内の埋土などをサンプリングし、ウォーターフローテーションによる食用資源の抽出を試みた (表 1)²⁾。

抽出作業は途中段階ではあるが、終了したものについて脊椎動物遺体は早稲田大学樋泉岳二氏に、炭化種実類については前川祐子氏に分析を依頼し、その分析結果について玉稿を賜った (付編 2・3)。また、今回は掲載していないが、前川氏は植物資源抽出のため、出土土器の土器圧痕調査も実施している。

2. 調査の概要

発掘調査は、平成 19 年 7 月～平成 20 年 2 月に郡元地区の旧共通教育棟改修工事に伴う事前調査として実施された。調査区は工事計画に基づき、南北に分かれる 2 つの調査区 (A・B 区) を設置した。

基本層位としては、1～7 層、縄文時代中期～近世までの埋蔵文化財を確認した。このうち、黒褐色のシルト質砂を基調とする 4 層が古墳時代の層である。

3. 古墳時代成果の概要

発掘調査の結果、古墳時代の遺構は大きく 4 層上面と 4 層中の 2 つに分けられる。4 層上面には、古墳時代の遺物や軽石礫などが密集している集積遺構を検出した。集積遺物は 4 層に少し埋まっている状況ではあるが、この遺構を覆っているのは古代の水田土と考えられる層であり、遺構が形成された時期については、慎重な検討が必要である。

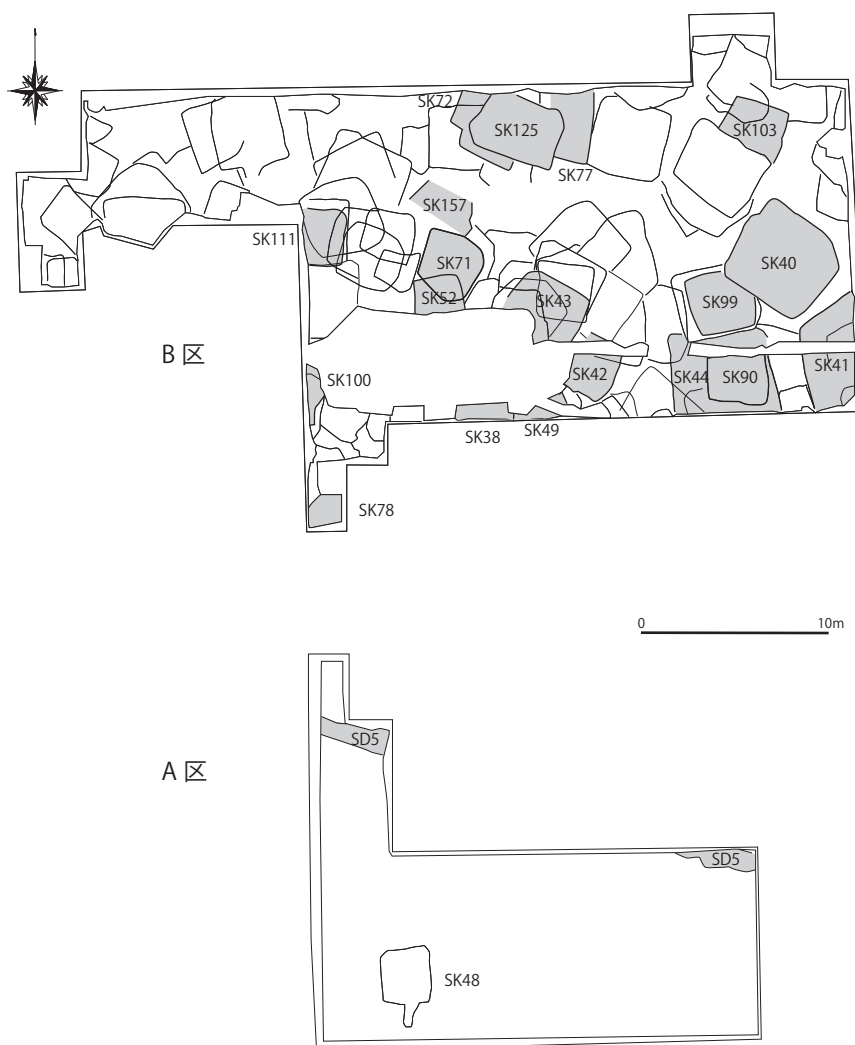


図 1 2007-2 古墳時代遺構配置図

4 層中では、古墳時代中期～後期の溝状遺構や竪穴建物跡群約 90 基が重なり合って検出された (図 1)。居住域であったと推定される。遺構は北側の B 区に集中し、古墳時代の後期が中心となる。南側の A 区では、溝状遺構 SD5 以北に古墳時代後期の竪穴建物跡が密集し、南側では建物跡 1 基 (SK48) のみが確認できた。SK48 は古墳時代中期の時期に当たると考えられる。

竪穴建物跡のほとんどが貼床を持つタイプである。重層的に検出されたため、竪穴建物跡の全形を把握できるものは少なかったが、基本の平面形は方形を呈し、平均一辺 4m ほどである。床面には、炉が確認できるものが多かった。また、在地土器である成川式土器を埋設した土器炉を持つものや、床に白砂を薄く敷いているものも多かった (図 2・3)。

遺構から出土した遺物は、成川式土器で笹貫タイプのものが多いが、須恵器、粘土塊、金銅製品、鉄製品、石製玉類、ガラス小玉、白玉、打製石斧、砥石、石庖丁、紡錘車、小形滑石製品、軽石製品など豊富な種類の遺物が出土し (図 4)、当時の生活の様相を知る良好な資料となっている。

註

- 1) 工事名称は共通教育棟 2 号館であるが、現在の稲森アカデミー棟を含んでいる。
- 2) フローテーションの方法については、札幌大学高宮広土教授 (当時) のご教授を賜った。



図 2 住居跡床面白砂検出状況



図 3 住居跡中央部の土器炉内埋土

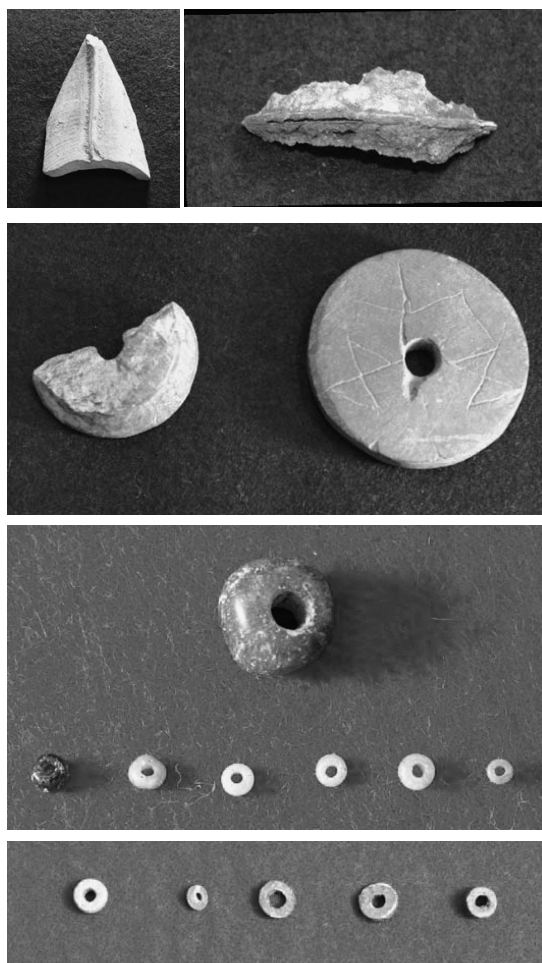


図 4 出土遺物

上段左上から：須恵器革袋形瓶、金銅製品、石製紡錘車、ガラス玉、白玉

表1 ウォーター・フローテーション分析試料一覧

遺構	試料No.	採取位置	層位	層の解説
SK38	677	B(土器炉周辺)	炭層	竪穴建物跡。床面で土器炉検出。遺構埋土は、床面までの埋土(M1)と、貼床埋土(M2)に分層。土器炉周辺に薄い炭化物層広がる。
SK40	228	FI 北側	焼土(炉か)	竪穴建物跡。床面で焼土と炭化物を多く含む薄い層を検出。炉と推定される。遺構埋土は、床面までの埋土(M1)と、貼床埋土(M2・M3)に分層。
	511	D	M2	
	723	B	-	
	746	44	貼床1	
	759	D	M2	
SK41	191	3下	M2	竪穴建物跡。床面に土器炉埋設。床面までの埋土(M1)、貼床埋土(M2)と分層。遺構南側の埋土M1内には、粘土ブロックや多量の炭化物・灰を含む範囲を確認できた。
	192	6下	M2	
	193	12上	M1	
	196	10下	M2	
	222	5下	M2	
	234	6下	-	
	239	10下	M1	
	240	16上	M1	
	256	13上	M1	
	254	3	M1	
	260	15下	M2	
	266	20下	M2	
	268	1下	M2	
	277	26下	M2	
	299	23上	M1	
301	15下	M2		
328	20下	M2		
333	25下	M2		
838		灰直上		
SK43	49	2	M2	竪穴建物跡。床面から土器炉検出。床面までの埋土(M1)と貼床内埋土(M2)に分層。
	50	5	M2	
	58	4	M1床	
SK44	150	土器炉近く	M2	竪穴建物跡。貼床内埋土(M2)。
SK49	149	土器炉	土器炉内埋土	竪穴建物跡。床面を2面検出。土器炉は上層の床面に付随。
	151	土器炉	土器炉内埋土	
SK52	137	P1	M1	竪穴建物跡。P1は床面より検出したビット(埋土:M1)。
SK71	288	34	M1	竪穴建物跡。床面中央部に炉が検出された。炉は土器炉で、貼床内に埋設されている。床面より上の埋土はM1。土器炉内は、炭化物や灰混じりの埋土。
	312	土器炉	土器炉内埋土	
	356	土器炉	土器炉内埋土	
	397	29	炭	
	832	8	M1	
	868	23	M1	
	882	25	M1	
	885	3	床上M1	
888	17	床上M1		
897	20	M1		
SK72	349	土器炉	土器炉内埋土	竪穴建物跡。床面には薄い白砂層と土器炉埋設。
SK77	347	貼床内	土器炉埋設土坑内埋土	竪穴建物跡。貼床内に土器炉を埋設。
SK78	346	-	-	竪穴建物跡。床面に土器炉埋設。
SK90	351	34	白砂	竪穴建物跡。床面には薄く堆積する白砂層と土器炉が検出された。
	469	54	白砂	
		29上		
SK99	736	sk1	テストレンチ内	竪穴建物跡。床面直上までの埋土がM1。竪穴内南側に炭化物や灰がまとまった部分が確認でき、これをSK1とした。
	739	B	M1床	
	808	22下	M1	
SK100	381	炉	焼土	竪穴建物跡。床面に炉と考えられる焼土と炭化物層検出。
SK103	636	3	M3白砂	竪穴建物跡。床面に薄く堆積している白砂層:M3。
SK111	773	土器炉	土器炉内埋土	竪穴建物跡。焼失家屋か。床面に土器炉埋設。
SK125	657	5	M1(白砂)	竪穴建物跡。床面に白砂層が薄く堆積(M1)。
	692	5	M1(白砂)	
SK157	755	土器炉	土器炉内埋土	竪穴建物跡。床面で土器炉検出。
SD5	No.17371			A区検出溝状遺構。
	1		4	4層中(包含層)。

付編2 鹿大構内遺跡：2007-2 郡元団地I・J-5・6区(共通教育棟2号館)出土の種子資料

前川祐子(岡崎市教育委員会)

1. 対象資料および分析方法

1. 分析資料

発掘調査時に採集・洗浄されていた古墳時代中・後期の住居埋土のうち、埋土中の炭化物の割合が多かったSK41とSK71, SK111を分析対象とした。また、それらの住居内出土土器について圧痕調査も同時に行ったが、紙面の都合上今回の報告では割愛する。炭化物の選別、写真撮影は鹿児島大学埋蔵文化財調査センターにて筆者が行った。

2. 分析方法

種子資料の抽出についてはフローテーション法を用いた¹⁾。フローテーションの作業手順は以下のとおりである。住居の出土状況や埋土等の詳細は前章を参照されたい。

①土壌採取(サンプリング)

SK71を50cm, SK41を40cmメッシュで採取。

②土壌の乾燥

③フローテーション

篩は0.5mmメッシュを最小とした。

④ソーティング

乾燥した採取土壌を再び篩にかけ、資料の大きさを揃える。その後、実体顕微鏡を使用し、種子、炭化材、骨等に選別した。

⑤同定

なお、住居埋土のサンプリングおよびフローテーションは完了していたため、筆者が行ったのは、炭化物の選別以降の作業(④, ⑤)である。

2. 分析結果(表1～5, 図1)

ソーティングの結果、回収した種子は表1・2に示した。また、全ソーティング結果は表3～5に示した。その表中の☆は、種子の可能性が高いが同定に至らなかったものを示している。

量は多いとは言えないものの、種子等の資料を回収することができた。前述したとおりSK41, SK71はメッシュで区切られているため、採取土壌には採取時の土壌採取No.が付与されている。以下に遺存状態が比較的良好だったものを示す。

SK71からは乾燥総重量13695.82gのうち、イネ16(図1-1)、不明種子5点が検出された。

SK41からは、乾燥総重量7645.06gのうち、ツルマメ1点(図1-2)、コミカンソウと思われる種子79点(図1-3)、イチイガシ1点(図1-5)、不明種子41点(図1-4)が検出された。

SK111については、乾燥総重量63.11gのうち種子と想定される資料は回収されなかった。

3. まとめ

今回の分析において同定できたものは、イネ、ツルマメ、イチイガシ、コミカンソウと思われる種子である。これらはいずれも住居の埋土から検出された。また、その分布状況は①全体的に分布していること、②住居跡の床面ではないこと、③獣魚骨等の破片も出土していることから、SK41, SK71の住居跡が廃絶された後に、住居跡周辺において使用され、その生活残渣を投棄したものと考えられる。

註

1) サンプリングの方法については鹿児島大学国際島嶼教育センターの高宮広土氏にご教示を得た。

参考文献

中村直子 2009「鹿児島大学構内遺跡郡元団地（共通教育棟）の発掘調査について—古墳時代の住居跡群と出土遺物を中心に—」『第55回鹿大史学会大会』 発表レジュメ

謝辞

本報告にあたり、鹿児島大学埋蔵文化財調査室の中村直子先生、新里貴之先生、寒川朋枝先生にはフローテーション調査と圧痕調査において全面的にご指導をいただきました。また、今回の分析にあたり、種子の同定には真邊彩氏（鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター）、一部は佐々木由香氏（パレオ・ラボ）からご教示をいただきました。末筆ながら記して感謝申し上げます。

表1 SK71 回収種子資料

No.	採取No.	層位	イネ
HF288	34	M1	1
LF397	29	炭	1
LF897	20	M1	4
LF868	23	M1	1
HF897	20	M1	1
HF868	23	M1	1
LF882	25	M1	3
HF885	3	床上M1	1
LF888	17	床上M1	2
LF832	8	M1	1
合計			16

表2 SK41 回収種子資料

No.	採取No.	層位	コミカンソウ	ツルマメ	イチイガシ
LF192	6下	M2	1		
LF268	1下	M2	1		
LF191	3下	M2	1		
LF196	10下	M2	1		1
LF328	20下	M2	5		
LF256	13上	M1	6		
LF301	15下	M2	7		
LF239	10下	M1	42		
LF277	26下	M2	1		
LF260	15下	M2	1		
LF254	3	M1	2		
LF193	12上	M1	1		
LF240	16上	M1	1		
LF266	20下	M2	3		
LF333	25下	M2	3		
LF299	23上	M1	2		
LF838			1		
LF222	5下	M2		1	
合計			79	1	1

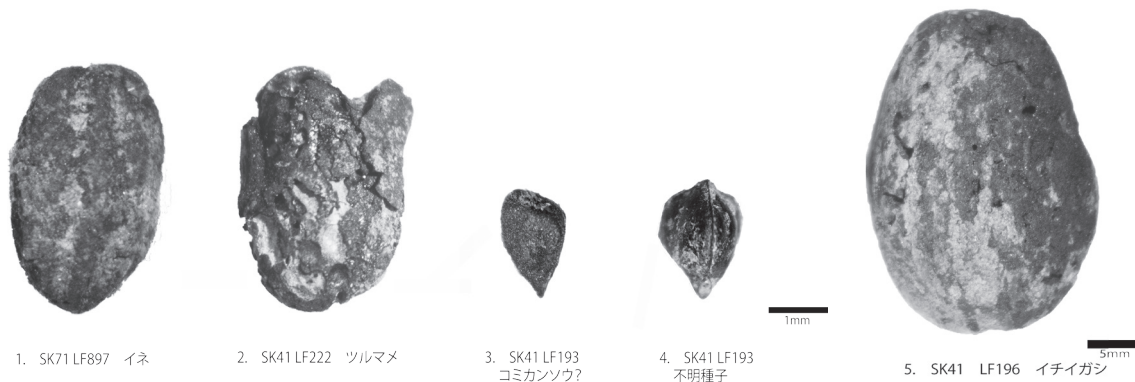


図1 炭化種子写真

表 3 SK71 ソーティング結果

No.	地区	層位	乾燥重量 (g)	炭化物 (g)	種子	イネ
HF288	34	M1	1.21	0.01	イネ	1
HF275	23	炭	0.8			
HF257	34	M1	0.2			
LF275	23	炭	2.54			
LF397	29	炭	41.44		イネ	1
LF157	34	M1	27.56			
LF271	36	炭	2.22			
LF259	28	M1	51.37			
LF288	34	M1	24.48		イネ?	
LF356	土器炉内		6.12			
LF392	35	炭	7.7			
LF312	土器炉内		12.57			
LF393	22	炭	13.11			
LF343	24	炭	6.53			
LF376	28	炭	9.88			
LF344	30	炭	10.99			
LF274	34	炭	2.04		☆	
HF312	土器炉内		3.77			
HF397	29	炭	5026			
HF343	24	炭	1.11			
HF392	35	炭	0.3			
HF356	土器炉内		4.89			
HF376	28		1.82			
HF393	22	炭	2.97			
HF274	34	炭	0.31	0.28		
HF833	33	M1床上	116.5			
HF862	35	M1	114.42			
HF908	32	M1	209.39			
LF862	35	M1	13.77		☆	
LF833	33	M1床上	13.25			
LF908	32	M1	62.66		イネ?	
LF870	30	M1	7.7			
LF897	20	M1	51.46		イネ	1
LF1119	29	M1	10.15		☆	
LF940	2	M1	66.23			
LF880	16	M1床上	85.32			
LF842	10	M1	73.29			
HF870	30	M1	75.95			
LF868	23	M1	29.71		イネ	1
LF885	3	M1	125.77		☆	
LF881	9	床上M1	111.39		イネ	
HF897	20	M1	447.51	0.11	イネ2	4
HF914	26	M1	307.79	0.14		
HF868	23	M1	201.64	0.01	イネ	1
HF882	25	M1	55.09	0	イネ3	3
HF928	19	M1	267.2		イネ?	
HF832	8	M1	143.09	1.17		
HF852	15	M1床上	253.02			
LF852	15	M1床上	44.1			
HF842	10	M1	286.59			
LF979	18	M1	317.51			
HF1061	24	M1	190.9			
LF928	19	M1	75.75		イネ?	
HF855	1	M1	166.38			
LF1118	5	M1	58.72			
HF846	6	M1	175.21			
HF836	27	M1床上	126.14	0.02		
HF1102	30	M1	115.37			
HF1046	31	M1	233.1			
LF846	6	M1	38.29			
HF917	18	M1床上	161.78			
HF882	25	M1	269.21			
HF940	2	M1	168.2			
HF1118	5	M1	166.61			
HF1088	7	M1	35.07		イネ(割れ)?	
HF880	16	床上M1	409.39			
LF914	26	M1	50.27	0.01	イネ4?	
HF888	17	床上M1	300.69			
HF1088	7	M1	114.86			
HF979	18	M1	831.43	0.05		
HF1119	29	M1	65.05			
HF885	3	床上M1	430.86	0	イネ・ガラス玉	1
LF888	17	床上M1	46.59		イネ	2
LF836	27	床上M1	2.07	0.01		
LF917	18	床上M1	45.46	0.02	☆	
LF832	8	M1	21.2			1
LF855	1	M1	22.92			
HF881	9	床上M1	605.46	0.06		
LF1102	30	M1	16.41			
計			13695.82	1.89		16

表 4 SK111 ソーティング結果

No.	地区	層位	乾燥重量 (g)	種子
HF805		M2	0.21	
HF773	炉内埋土		1.36	?
LF423	炭化物	M1	38.35	
LF805		M2	9.95	
LF765		M1	3.37	
LF773	炉内埋土		4.38	
HF765		M1	2.52	
HF423	炭化物	M1	3.77	
計			63.91	

表5 SK41ソーティング結果

No.	地区	層位	乾燥重量 (g)	炭化物 (g)	種子	コミカン ソウ	No.	地区	層位	乾燥重量 (g)	炭化物 (g)	種子	コミカン ソウ
HF195	2下		1.92				LF403	土器炉内	2	7.82			
HF287	7下		1.28	0.06			LF224	炉炭化物		4.38			
HF68	21		2.32	0.14			LF405	土器炉内	M1	0.66			
HF328	20下		4.41	0.06			HF266	15上		0.32			
HF277	26下		0.08				HF251	17上		0			
HF254	3		12.57	0.05			HF218	4下		4.05			
HF217	4下		2.8				HF208	22上		0.53			
HF302	土器炉内	M1	0.85				HF234	6下		2.39			
HF225	10	M1床上	4.49				HF169	3		1.6			
HF229	土器炉周辺		0.01				HF301	15下		0.97			
HF339	7	M1床上	4.25				HF78	20		2.43			
HF883		炭層	1.31	0.6			HF341	2下		0.36			
HF920		床直上	0.4.0				HF172	4下		0.96			
LF323	13下		15.9				HF191	3下		0.27			
LF530	7下		6.07				HF294	1下		0.67			
LF192	6下		7.36	0.01		1	HF299	23上		2.93			
LF208	22上		34.92				HF273	19下		1.32			
LF172	4下		16.34				HF213	19下		10.12			
LF207	27下		17.79				HF194	1下		0.34			
LF339	7	M1床上	7.23				HF224	炉	炭化物	1.54			
LF268	1下		7.98	0		1	HF278	12下		0.86			
LF294	1下		34.06	0	☆		HF256	13上		4.77		☆モモ?	
LF169	3		13.24				HF403	土器炉内	2	0.35			
LF246	16下		37.1				HF266	20下		0.16			
LF226	土器炉内	1層	32.07				HF167	27上		0.87	0.23		
LF194	1下		6.32				HF222	5下		3.51	0.44		
LF243	4上		21.84	0	☆		HF227	炉	炭化物	0.95			
LF68	21	M1床上	3.19				HF196	10下		10.68	0.2		
LF105	13	M1床上	13.83				HF279	5下		0.28			
LF191	3下		40.13	0		1	HF207	27下		2.77			
LF391	土器炉内	M2	15.34				HF223	炉	炭化物	0.89			
LF196	10下		53.62	0.15	イチイガン	1	HF196	10下		0.03			
LF232	12	M1床上	9.94				HF405	土器炉内	M1	4.66			
LF211	27上		32.36				HF404	土器炉内	M3	1.04	0.08		
LF78	20	M1床上	15.85				HF208	22上		1.89	0.48	☆	
LF218	4下		26.35				HF192	6下		1.68			
LF287	7下		38.55				HF193	12上		1.39	0.0.2		
LF195	2下		31.03		☆		HF262	21下		1.4			
LF222	5下		16.2	0.05	☆(ツルマメ)		HF232	12	M1床上	1.06			
LF217	4下		25.88				HF214	14	M1床上	0.49			
LF279	5下		15.73				HF240	16上		2.42			
LF234	6下		11.59				HF105	13	M1床上	3.15			
LF341	2下		17.7				HF233	25下		2.43	0.02	☆	
LF328	20下		71.1			5	HF211	27上		2.69			
LF225	10	M1床上	18.27				HF266	20下		0.37		☆	
LF256	13上		47.35			6	LF883		炭	49.06			
LF273	19下		14.48				LF871		炭	39.16		☆	
LF301	15下		32.38			7	LF838		炭直上	14.52	0.01	☆	1
LF239	10下		40.76	0.02		42	LF824			23.36			
LF277	26下		7.08		☆	1	LF920		床直上	22.19			
LF260	15上		94.59		☆	1	LF864			24			
LF254	3		37.52		☆	2	LF840		炭	50.54			
LF193	12上		32.78		☆	1	LF912		炭	55.57		☆	
LF240	16上		36.43		☆	1	LF983		炭直上	41			
LF251	17上		61.68	0.01	☆		HF956			440.38			
LF337	11下		14.52				LF951		炭	23.47		☆	
LF229	土器炉周辺		8.79				LF956		炭	53.4			
LF278	12下		6.82				HF824			425.84			
LF266	20下		22.51		☆	3	HF912		炭	661.74	0.01		
LF262	21下		25.68		☆		HF840		炭	576.82	0.22		
LF214	14		29.19				HF983		炭直上	381.68			
LF333	25下		30.7		☆	3	HF920		床直上	282.64			
LF215	16下		60.77		☆		HF871		炭	621.53			
LF299	23上		58.14		☆	2	HF838		炭直上	401.44	0.39	モモ?	
LF167	27上		2.9				HF864			641.5	1.75		
LF213	19下		9.1		☆		HF883		炭	615.19	0.02		
LF414	土器炉内	M3	8.09				HF951		炭	620.93	0.39		
LF223	炉・炭化物		10.02										
計										7429.99	5.39		79

付編3 鹿大構内遺跡：2007-2 郡元団地I・J-5・6区(共通教育棟2号館)で採集された脊椎動物遺体

樋泉岳二(早稲田大学)

はじめに

鹿児島大学構内遺跡は鹿児島市街の沖積平野(標高7m前後)に位置する。本遺跡では平成19年度に実施された郡元団地(2007-2)の発掘調査において、古墳時代の多数の住居跡が密集状態で検出され、その埋土の水洗選別によって脊椎動物遺体(魚骨・鳥獣骨)が検出された。ここではその分析結果について報告する。

1. 分析資料と分析方法

分析資料のほとんどは住居跡埋土の水洗選別に伴う沈殿物(ヘビー・フラクション：HF)から0.45mm目のフルイによって回収されたもの(以下「水洗選別HF資料」)だが、発掘現場での目視確認と手での拾い上げによって採集されたもの(以下「ピックアップ資料」)もわずかにある。資料の年代は、共伴した土器からすべて6世紀代と推定されている(中村直子氏のご教示による)。

同定対象資料については、採集された骨のなかから部位の判定可能なものを抽出して詳細な同定を行った。また部位不明の破片についても、骨質や組織の特徴に基づいて魚類、鳥類、哺乳類に区分した(これらの判別は確実ではないが、大よその傾向は示されていると思われる)。同定方法は現生標本との比較を原則とした。比較標本には筆者の所蔵標本を使用した。計数方法については、硬骨魚類の歯・鰭棘、鳥獣類の四肢骨骨幹のうち全周を残さない破片、および分類群・部位不明の破片については同定標本数(NISP)算定の対象外とした。

2. 分析結果

同定された種名の一覧を表1、同定結果の詳細を表2、NISPによる組成を表3に示した。同定標本数(NISP)は合計65点で、他にNISPの算定対象外とした詳細な種・部位不明の破片が多数ある。同定資料のうちピックアップ資料は2点のみで、他はすべて水洗選別HF資料であることから、以下ではこれらを一括して扱う。

保存状態：資料の大半は焼骨であったが、歯については焼けていないものがわずかにみられた(表2)。

組成：魚類、鳥類、哺乳類が確認された。脊椎動物全体の組成を同定標本数(NISP)でみると(図1)、魚類、鳥類と哺乳類がおおむね同等の比率を占める。ただし、同定できた標本数が全体的に少なく、また出土状況にも偏りが認められるため、今回の結果が本遺跡における脊椎動物資源利用の全体的様相をどこまで代表しているかについては慎重に検討する必要がある。

魚類：軟骨魚綱2分類群、硬骨魚綱7分類群が確認された(表1)。同定できた資料数(NISP)が合計で19点と少ない割には、多くの種が含まれている点の特徴的といえるかもしれない。組成をみると、ニシン科(イワシ類)がSK43・SK52・SK78から計5点、エイ類がSK78・SK99から計5点検出されており、やや多い。カツオ類(ソウダガツオ属・カツオ・スマのいずれかと思われるが判別が不確実のため「カツオ類」とした)はSK100から尾柄部椎骨2点と尾部棒状骨1点が検出されているが、これらは同一個体のものであると思われる。ほかに、サメ類、ゴンズイ属、マダイ亜科、サバ属、コチ科、カレイ科?が各1点確認された。そのほかにもNISP算定外の資料としてタイ科の歯(マダイ亜科の他にクロダイ属が含まれる可能性もある)が4軒の住居跡、詳細な同定が困難な椎骨・鰭棘・その他の破片が6軒の住居跡から検出されており、後者はSK71でやや多くみられた。

同定された魚類の生息環境をみると、外洋性表層回遊魚としてニシン科・サバ属・カツオ類(サメ類も詳細不明ではあるが、この範疇に含まれるかもしれない)、沿岸性種としてはエイ類・ゴンズイ属・マダイ亜科・コチ科・カレイ科?がみられる。これらはいずれも現在の鹿児島湾内の生息種である。カツオ類は外

洋性がとくに強い種類だが、水深が大きく黒潮の影響を強く受ける鹿児島湾の特性（大木 2000）や、本遺跡に近い縄文後期の草野貝塚や鹿児島湾の対岸に位置する同時代の柘原貝塚でも多数出土していること（四宮 1988, 樋泉 2005）を考慮すると、遺跡形成当ても湾内まである程度の来遊があったとみてもよいかと思われる。

鳥類：SK72（試料 No.349）で 16 点がまとまって検出された。詳細な分類群の特定に至っていないが、すべて比較的小型の種で、鳥口骨には 2 種がみられた。また中手骨・前肢基節骨には他よりやや大型と思われるものがあることから、別種が含まれている可能性がある。最小個体数（MNI）は左中足骨遠位端で 4 個体（おそらくすべて同一種）が確認されており、これに上記の別種を加えると個体数はより多くなると考えられる。そのほかに SK41・SK71 から未同定の小型種が、また SK78 から詳細な同定が困難な鳥骨破片が検出されている。

哺乳類：イノシシが 5 軒の住居跡と SD5 から計 8 点、ノウサギが 4 軒の住居跡から計 6 点、イノシシまたはシカと思われる指骨が 2 軒の住居跡から各 1 点検出された。そのほかに、詳細な同定が困難な獣骨破片が 14 軒の住居跡および包含層から検出されており、SK40・SK43・SK49・SK99 ではややまとまった量が得られている。

3. 考察

資料の大半は焼骨であったが、これは埋蔵環境が生骨（焼けていない骨）の保存に不適であったために、生骨が溶解消滅し、焼骨だけが残された結果と思われる。骨が焼けた経緯については想像の域を出ないが、意図的に骨を焼いたと思われるような状況は認められないことから、炉内部などで被熱したものが、その後拡散して住居跡埋土などに混入したのではないかとと思われる。

骨類が検出されたサンプル数をみると、水洗選別サンプルのヘビー・フラクション（HF）ソーティング終了分総数 365 サンプルのうち、骨が検出されたサンプル数は 31 サンプル（8.5%）であった。これが多いのか少ないのかは比較資料がないので判断できないが、少なくとも「骨類の検出がそれほど特殊なことではない」と言うことはできるであろう。また、骨類の内容を遺構別にみると、骨類が検出された計 18 軒の住居跡のうち、詳細不明の骨片も含め、獣骨が 14 軒（+ SD5・包含層各 1）、魚骨が 11 軒、鳥骨が 4 軒の住居跡から検出されており、これらの利用が比較的普通に行われていたことが示唆される。

漁撈の様相をみると、同定された魚類はすべて海産種であり、いわゆる「水田漁撈」のような淡水域での漁労の証拠は確認できなかった。漁場については、いずれも鹿児島湾内で漁獲可能な種類と思われることから、遺跡に比較的近い海域が主な漁場となっていたと推測されるが、カツオ類はより遠方からもたらされた可能性もある。漁獲技術については、ニシン科・サバ属のような比較的小型の回遊魚、エイ類・コチ科（・カレイ科？）など砂泥域の底魚類、マダイ亜科のようなやや大型の沿岸性種、さらにカツオ類・サメ類など比較的大型の回遊魚類など、多様なサイズ・生態をもつ種類がみられることから、多様な漁法の存在が推測される。ただし、これらの魚類が本遺跡の住民によって直接漁獲されたものか、別の漁撈集団から入手されたものか、両者が混在しているのかについては、さらに検討が必要である。

狩猟の様相をみると、鳥類については詳細な種類を特定できていないが、比較的小型の鳥類の猟がしばしば行われていたと推測される。哺乳類についてはイノシシとノウサギが主対象であったと思われる、いずれも人里周辺に普通にみられる種類であることから、遺跡近隣での猟が中心であったと推定される。

謝辞

鹿児島大学埋蔵文化財調査センターの中村直子氏・新里貴之氏には貴重な資料を分析する機会を与えていただき、また分析に際して多くのご教示・ご助力を賜った。記して厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 大木公彦 2000『鹿児島湾の謎を追って』春苑堂出版
 四宮明彦 1988「草野貝塚出土魚類の概要」『草野貝塚』（出口 浩・中村直子編）鹿児島市教育委員会
 樋泉岳二 2005「柁原貝塚出土の魚類遺体群」『柁原貝塚』（羽生文彦・宮迫佑治編）垂水市教育委員会

表1 鹿大構内遺跡：2007-2（共通教育棟2号館）調査で採集された脊椎動物遺体の種名一覧

和名	学名	備考	
軟骨魚綱	Chondrichthyes		
サメ類	Lamniformes ?	アオザメ属/ミズワニ科?	
エイ類	Myliobatiformes		
硬骨魚綱	Osteichthyes		
ニシン科	Clupeidae	ゴンズイ近似. ギギ・ナマズ・ハマギギ類ではない	
ゴンズイ属	<i>Plotosus</i>		
マダイ亜科	Sparinae		
サバ属	<i>Scomber</i>		
カツオ類	<i>Auxis, Katsuwonusu or Euthynnus</i>		ソウダカツオ属・カツオ・スマのいずれか
コチ科	Platycephalidae		
カレイ科?	Pleuronectidae ?		
鳥綱	Aves		
目不明	Order indet.	小型種. 複数種が含まれる.	
哺乳綱	Mammalia		
ノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>		
イノシシ	<i>Sus scrofa</i>		

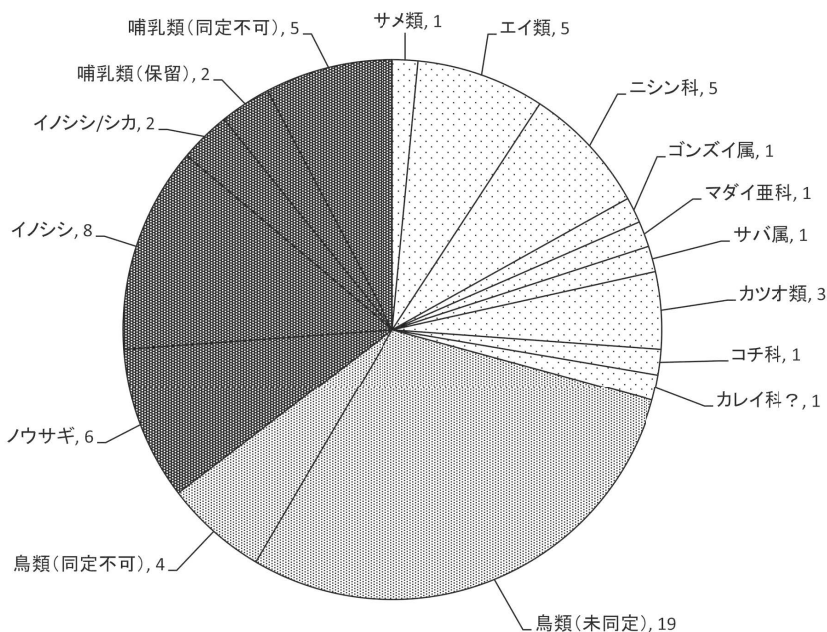


図1 鹿大構内遺跡：2007-2（共通教育棟2号館）調査で採集された脊椎動物遺体の組成（NISP比）

表2 鹿大構内遺跡：2007-2（共通教育棟2号館）調査で採集された脊椎動物遺体の同定結果

* 数量：a 多量，c 中量，r 少量，+ あり。

遺構名	年代	採集法	試料 No.	種類	部位	残存位置	左右	数量	焼	備考	
2007-2	SK38	6C	水洗HF	677	哺乳類(同定不可)	不明		c	焼		
2007-2	SK40	6C	水洗HF	228	マダイ亜科	主上顎骨	中間部	R	1	焼	
2007-2	SK40	6C	水洗HF	511	タイ科	臼歯		1			
2007-2	SK40	6C	水洗HF	511	真骨類(同定不可)	歯		1		ドーム型だがタイ科ではない。<ラ科咀嚼歯？	
2007-2	SK40	6C	水洗HF	723	コチ科	主上顎骨	L	1	焼		
2007-2	SK40	6C	水洗HF	723	哺乳類(同定不可)	不明	破片	a	焼		
2007-2	SK40	6C	水洗HF	746	タイ科	臼歯		4	焼		
2007-2	SK40	6C	水洗HF	759	哺乳類(同定不可)	不明	破片	c	焼		
2007-2	SK41	6C	水洗HF	234	イノシシ?	臼歯		2	焼		
2007-2	SK41	6C	水洗HF	234	哺乳類(同定不可)	不明	破片	c	焼		
2007-2	SK43	6C	水洗HF	49	ニシン科	椎骨		3	焼		
2007-2	SK43	6C	水洗HF	49	真骨類(同定不可)	鰭棘	破片	+	焼		
2007-2	SK43	6C	水洗HF	49	哺乳類(同定不可)	不明	破片	a	焼		
2007-2	SK43	6C	水洗HF	50	タイ科	臼歯		1			
2007-2	SK43	6C	水洗HF	50	タイ科	臼歯		1	焼		
2007-2	SK43	6C	水洗HF	50	サバ属	角骨		1	焼		
2007-2	SK43	6C	水洗HF	50	真骨類(同定不可)	不明	破片	r	焼		
2007-2	SK43	6C	水洗HF	50	イノシシ?	臼歯		1	焼		
2007-2	SK43	6C	水洗HF	50	哺乳類(同定不可)	不明	破片	a	焼		
2007-2	SK43	6C	水洗HF	58	哺乳類(同定不可)	不明	破片	c	焼		
2007-2	SK43	6C	水洗HF	58	同定不可	不明		1	焼		
2007-2	SK44	6C	水洗HF	150	哺乳類(同定不可)	不明	破片	c	焼		
2007-2	SK49	6C	水洗HF	149	真骨類(同定不可)	不明	破片	r	焼		
2007-2	SK49	6C	水洗HF	149	鳥類(未同定)	中足骨	遠位端	L	1	焼	小型種
2007-2	SK49	6C	水洗HF	149	鳥類(同定不可)	指骨	完存	?	1	焼	小型種だが長い
2007-2	SK49	6C	水洗HF	149	ノウサギ	臼歯		1	焼		
2007-2	SK49	6C	水洗HF	149	哺乳類?(保留)	保留	破片	1	焼	寛白破片か?哺乳類とすれば小型種	
2007-2	SK49	6C	水洗HF	149	哺乳類(同定不可)	四肢骨		1	焼	小型種	
2007-2	SK49	6C	水洗HF	149	哺乳類(同定不可)	不明	破片	a	焼		
2007-2	SK49	6C	水洗HF	151	イノシシ	基節骨		1	焼		
2007-2	SK49	6C	水洗HF	151	哺乳類(同定不可)	指骨		1	焼	小型種	
2007-2	SK49	6C	水洗HF	151	哺乳類(同定不可)	不明	破片	a	焼		
2007-2	SK49	6C	水洗HF	151	同定不可	不明		1	焼	小型哺乳類の側頭骨岩様部破片か	
2007-2	SK52	6C	水洗HF	137	ニシン科	椎骨		1	焼		
2007-2	SK52	6C	水洗HF	137	哺乳類(同定不可)	不明	破片	c	焼		
2007-2	SK71	6C	水洗HF	312	真骨類(同定不可)	椎骨	破片	c	焼		
2007-2	SK71	6C	水洗HF	312	真骨類(同定不可)	鰭棘	破片	c	焼		
2007-2	SK71	6C	水洗HF	312	真骨類(同定不可)	不明	破片	c	焼		
2007-2	SK71	6C	水洗HF	312	鳥類(未同定)	嘴骨		1	焼	小型種	
2007-2	SK71	6C	水洗HF	312	鳥類(同定不可)	指骨		2	焼	小型種	
2007-2	SK71	6C	水洗HF	312	哺乳類(同定不可)	不明	破片	r	焼		
2007-2	SK71	6C	水洗HF	356	タイ科	臼歯		1			
2007-2	SK71	6C	水洗HF	356	真骨類(同定不可)	椎骨	破片	1	焼		
2007-2	SK71	6C	水洗HF	356	真骨類(同定不可)	鰭棘	破片	a	焼		
2007-2	SK71	6C	水洗HF	356	真骨類(同定不可)	不明	破片	a	焼		
2007-2	SK71	6C	水洗HF	356	鳥類(未同定)	腕骨	近位端	*	1	焼	
2007-2	SK72	6C	水洗HF	349	鳥類(未同定)A	鳥口骨	肩甲骨端	R	2	焼	小型種
2007-2	SK72	6C	水洗HF	349	鳥類(未同定)B	鳥口骨	肩甲骨端	R	1	焼	小型種
2007-2	SK72	6C	水洗HF	349	鳥類(未同定)	中手骨	近位端	R	1	焼	小型種(やや大きい)
2007-2	SK72	6C	水洗HF	349	鳥類(未同定)	前肢基節骨	完存	1	焼	小型種(やや大きい)	
2007-2	SK72	6C	水洗HF	349	鳥類(未同定)	脛骨	遠位端	L	1	焼	小型種
2007-2	SK72	6C	水洗HF	349	鳥類(未同定)	脛骨	遠位端	R	1	焼	小型種.Lと同一種
2007-2	SK72	6C	水洗HF	349	鳥類(未同定)	中足骨	近位端	L	2	焼	小型種
2007-2	SK72	6C	水洗HF	349	鳥類(未同定)	中足骨	遠位端	L	4	焼	小型種.おそらく近位端と同一種
2007-2	SK72	6C	水洗HF	349	鳥類(未同定)	中足骨	遠位端	R	1	焼	小型種.Lと同一種
2007-2	SK72	6C	水洗HF	349	鳥類(未同定)	四肢骨要確認	骨端	*	1	焼	小型種(やや大きい)
2007-2	SK72	6C	水洗HF	349	鳥類(未同定)	四肢骨要確認	骨幹	*	1	焼	小型種(やや大きい).骨端と接合する可能性あり
2007-2	SK72	6C	水洗HF	349	哺乳類(同定不可)	不明	破片	c	焼		
2007-2	SK77	6C	水洗HF	347	哺乳類(同定不可)	不明	破片	c	焼		
2007-2	SK78	6C	水洗HF	346	エイ類	椎骨		2	焼		
2007-2	SK78	6C	水洗HF	346	ニシン科	椎骨		1	焼		
2007-2	SK78	6C	水洗HF	346	タイ科	臼歯		1			
2007-2	SK78	6C	水洗HF	346	鳥類(同定不可)	指骨		1	焼	小型種だが長い	
2007-2	SK78	6C	水洗HF	346	鳥類(同定不可)	肋骨		r	焼		
2007-2	SK78	6C	水洗HF	346	鳥類(同定不可)	不明	破片	c	焼		
2007-2	SK78	6C	水洗HF	346	ノウサギ	踵骨		L	1	焼	
2007-2	SK78	6C	水洗HF	346	哺乳類(同定不可)	椎骨		2	焼	小型種	
2007-2	SK78	6C	水洗HF	346	哺乳類(同定不可)	肋骨		r	焼	小型種	
2007-2	SK78	6C	水洗HF	346	哺乳類(同定不可)	不明	破片	c	焼		
2007-2	SK90	6C	水洗HF	351	イノシシ	臼歯	破片	1	焼		
2007-2	SK90	6C	水洗HF	469	イノシシ	上顎口		L	1	焼	未萌出/萌出中
2007-2	SK90	6C	ピッケルアップ	SK90-29上	サメ類	歯		1	焼	エナメル質のみ残存.アオサメ属/ミズノ科?	
2007-2	SK99	6C	水洗HF	736	エイ類	椎骨		2	焼	中型	
2007-2	SK99	6C	水洗HF	736	真骨類(同定不可)	鰭棘	破片	+	焼		
2007-2	SK99	6C	水洗HF	736	哺乳類(同定不可)	不明	破片	a	焼		
2007-2	SK99	6C	水洗HF	739	エイ類	尾棘	破片	1	焼		
2007-2	SK99	6C	水洗HF	739	ノウサギ	上腕骨	遠位端	1	焼		
2007-2	SK99	6C	水洗HF	739	ノウサギ	踵骨		L	1	焼	
2007-2	SK99	6C	水洗HF	739	ノウサギ?	臼歯		1	焼		
2007-2	SK99	6C	水洗HF	739	哺乳類(同定不可)	不明	破片	a	焼	小型獣主体?	
2007-2	SK99	6C	水洗HF	808	哺乳類(保留)	後頭骨	後頭部	1	焼	小型種	
2007-2	SK99	6C	水洗HF	808	哺乳類(同定不可)	不明	破片	c	焼		
2007-2	SK100	6C	水洗HF	381	カツオ類	尾椎(尾柄部)		2	焼	同一個体	
2007-2	SK100	6C	水洗HF	381	カツオ類	尾部棒状骨		1	焼		
2007-2	SK100	6C	水洗HF	381	イノシシ/シカ	中節骨	遠位端	1	焼		
2007-2	SK100	6C	水洗HF	381	哺乳類(同定不可)	指骨		1	焼	小型種	
2007-2	SK103	6C	水洗HF	636	ノウサギ	側頭骨		L	1	焼	
2007-2	SK111	6C	水洗HF	773	カレイ科?	椎骨	破片	r	焼		
2007-2	SK111	6C	水洗HF	773	真骨類(同定不可)	不明	破片	r	焼		
2007-2	SK111	6C	水洗HF	773	哺乳類(同定不可)	不明	破片	c	焼		
2007-2	SK125	6C	水洗HF	657	哺乳類(同定不可)	不明	破片	1	焼		
2007-2	SK125	6C	水洗HF	657	哺乳類(同定不可)	不明	破片	r	焼		
2007-2	SK125	6C	水洗HF	692	イノシシ/シカ	指骨	近位端	1	焼		
2007-2	SK157	6C	水洗HF	755	ゴンズイ属	胸鰭棘		R	1	焼	小型.ゴンズイ近似.ギギ・ナマス・ハマギギ科ではない
2007-2	SK157	6C	水洗HF	755	イノシシ	基節骨	完存	r	焼		
2007-2	SK157	6C	水洗HF	755	哺乳類(同定不可)	不明	破片	r	焼		
2007-2	SD5	6C	ピッケルアップ	No.17371	イノシシ	下顎骨	[M3]	L	1	焼	焼けてはいない.保存悪く顎骨体は溶解進行
包含層	6C?	水洗HF		1	哺乳類(同定不可)	不明	破片	c	焼		

表3 鹿大構内遺跡：2007-2(共通教育棟2号館)調査で採集された脊椎動物遺体の組成(NISP)

*太字斜体で示したものはピックアップ資料, その他の他は水洗選別HF資料, frは詳細不明の破片, <>付きの値はNISP算定対象外, a多量, c中量, r少量.

種類*	SK38	SK40	SK41	SK43	SK44	SK49	SK52	SK71	SK72	SK77	SK78	SK90	SK99	SK100	SK103	SK111	SK125	SK157	SD5	包含層	合計	
サメ類												<i>1</i>									1	
エイ類											2		3									5
ニシン科				3			1				1											5
ゴンズイ属																		1				1
マダイ亜科		1																				1
タイ科(歯)*		<5>		<2>				<1>			<1>											+
サバ属				1																		1
カツオ類														3								3
コチ科																						1
カレイ科?																1						1
真骨類(同定不可)fr*		<1>		<r>				<a>					<r>			<c>						+
鳥類(未同定)						1		2	16													19
鳥類(同定不可)						1		2			1											4
鳥類(同定不可)fr*											<c>											+
ノウサギ						1					1		3	1								6
イノシシ			2	1		1						2						1	<i>1</i>			8
イノシシ/シカ														1			1					2
哺乳類(保留)						1							1									2
哺乳類(同定不可)						2					2			1								5
哺乳類(同定不可)fr*		<a>	<c>	<a>	<c>	<a>	<c>	<r>	<c>	<c>	<c>		<a>				<r>	<r>		<c>		+
同定不可fr*				<1>																		+
合計	+	2	2	5	+	7	1	4	16	+	7	3	7	5	1	1	1	2	1	+		65

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報 31

2017年3月発行

編集・発行 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター

鹿児島市郡元一丁目 21-24

TEL 099-285-7270

印刷 斯文堂株式会社

鹿児島市南栄 2-12-6

TEL 099-268-8211

Kagoshima University Research Center for Archaeology Report Vol.31

CONTENS

Chapter

1 Report of archaeological research in fiscal year 2015	4
2 Report of text excavation in the Korimoto Campus(2015-1)	8
3 Report of text excavation in the Sakuragaoka Campus(2015-2)	10
4 Report of rescue surveys 2015(2014-B・2015-A~M)	12
5 Report of other jobs	18

Published by
Kagoshima University Research Center for Archaeology
2017